磯地区統合小学校建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

大座西遺跡発掘調査報告書

平成18年３月

隠岐の島町土地開発公社
隠岐の島町教育委員会

例　　言

1．本書は、隠岐の島町教育委員会が隠岐の島町土地開発公社の委託を受けて、平成14・16年度に実施した磯地区統合小学校建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．調査組織は次のとおりである。

調査主体	藤田　勲	隠岐の島町教育委員会教育長
事務局	斉藤　博	隠岐の島町教育委員会生涯学習課長
	佐藤智樹	隠岐の島町教育委員会生涯学習課主事
調査指導	島根県教育庁文化財課及び島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	
調査員	横田　登	隠岐の島町教育委員会生涯学習課文化振興係長
	野津研吾	隠岐の島町教育委員会生涯学習課臨時職員

3．現場における発掘作業・遺物整理作業に参加された方々及び、遺物実測・写真撮影等に御協力いただいた方々の名を記し、感謝の意を表します。（敬称略）

（発掘作業及び遺物整理作業）

岩田良夫　但馬　保　井川京子　新見淑子　村上　満　田中俊子　山崎弘子
引田　修　清水和雄　滝下好一　西田政男　佐々木菊雄

（遺物実測・写真撮影）

内田律雄　広江耕史　熱田貴保　池淵俊一　守岡正司　勝部智明　伊藤徳広
仁木　聡　馬庭範成　福間尚実　渡邊富美子　小銀康之　石橋裕子　舟木千晴
稲田陽介　竹下尚志

4．本書の編集、執筆は、調査指導の先生方と遺物実測者の指導、助言を得ながら、横田、野津が行った。

5．本書で使用した遺構記号は次の通りである。

SD＝溝、溝状遺構　　SK＝土坑

6．挿図中の矢印は真北を指す。

7．本書中の高さはすべて海抜高で表示している。

目　　次

例　　言
第１章　位置と環境 …… 1
第２章　調査の概要 …… 7
第３章　まとめ …… 26
出土遺物観察表 …… 28

第１章　位置と環境

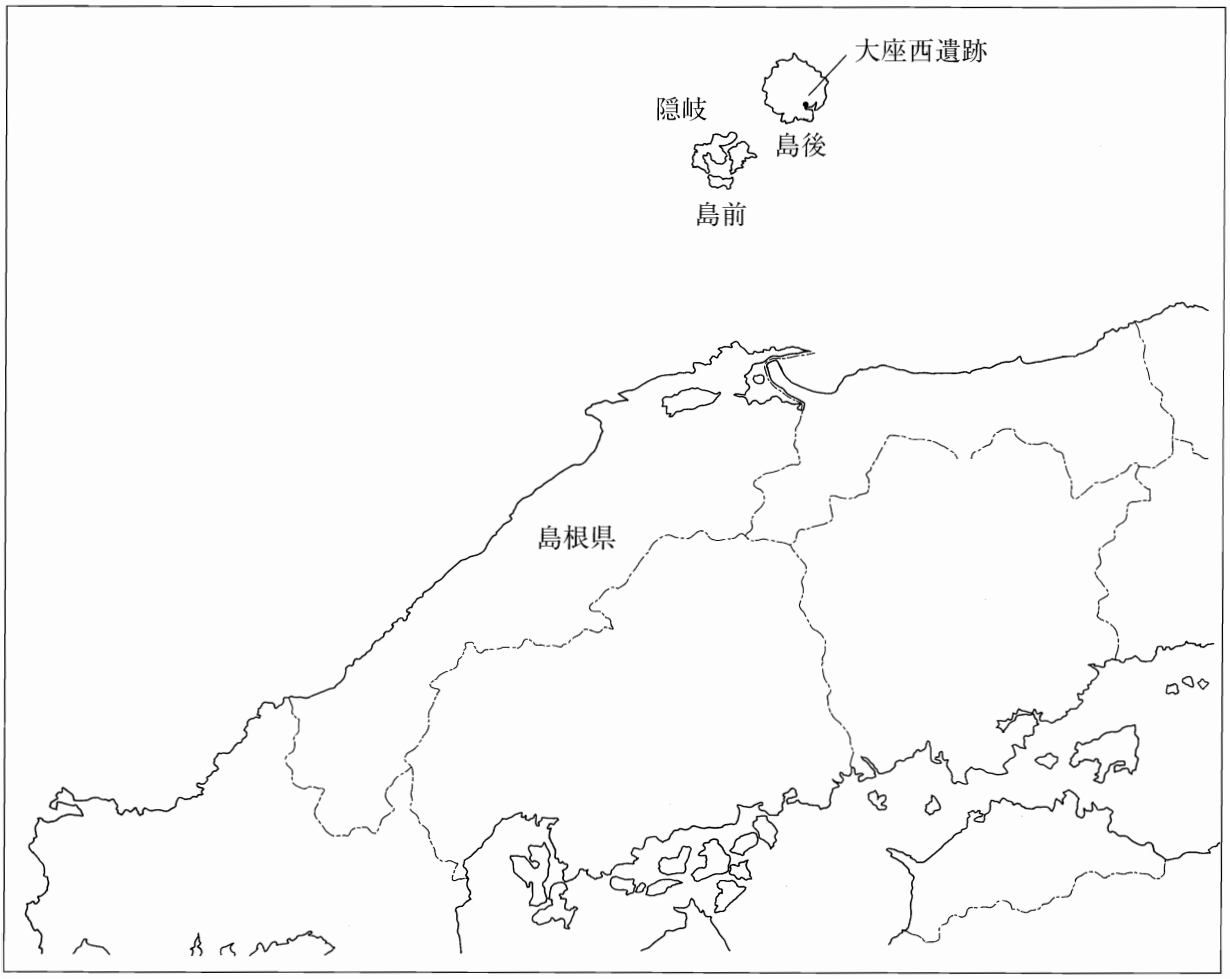
大座遺跡は、隠岐諸島の中の島後と呼ばれる島にあり、島根県隠岐郡隠岐の島町下西に所在する。隠岐諸島は、島根半島の北方沖合50～80㎞に散在する４つの住民島と、大小180余の無人島からなっている。４つの住民島は大別して島前、島後と呼ばれ、南西部に位置する島前は西ノ島、知夫里島、中ノ島の３島の総称である。島後というのは島後一島の呼称で旧西郷町、旧布施村、旧五箇村、旧都万村の１町３村で構成され、現在市町村合併により隠岐の島町となっている。

島後は、諸島中最大の面積（243㎢）をもち、ほぼ円形に近い形をしている。島の南東部、北西部にそれぞれ西郷湾、重栖湾が切り込みをつくっており、天然の良湾となっている。

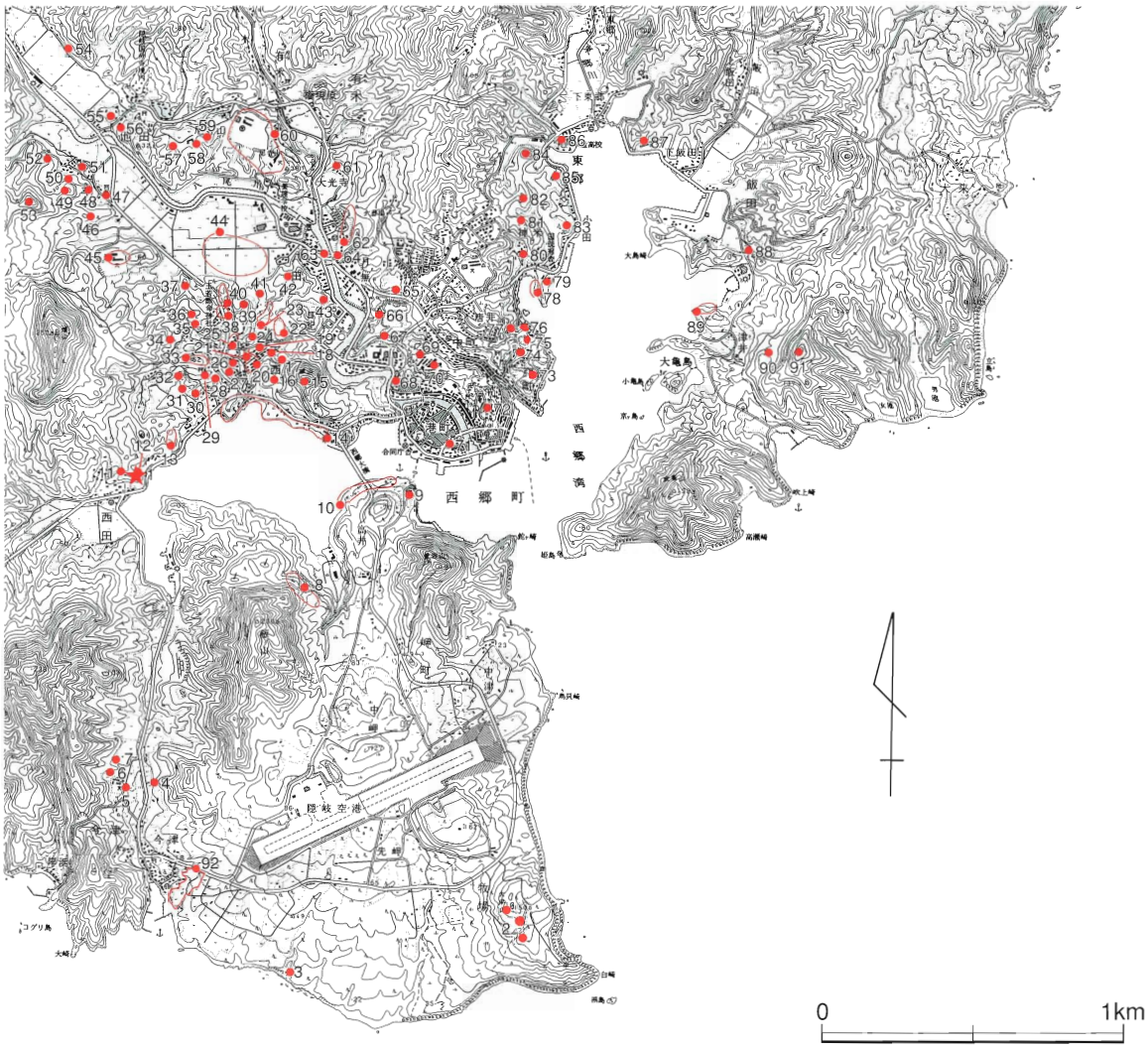
島の地勢をみると、最高峰大満寺山（608ｍ）を中心とする山地は起伏がはげしく、それらが海岸まで続き断崖絶壁の海岸線を作っている。その中で、北西部の旧五箇村、北部の旧西郷町中村、南部の旧西郷町平、南西部の旧都万村にはまとまった平地がある。中でも西郷湾に流れ込む隠岐最長の八尾川が形成した八尾平野（隠岐の島町平）は、隠岐最大の穀倉地帯といえる。島後の遺跡はこれら平野を取り巻くように集中しており、中でも西郷湾周辺は密集地といえる。

旧石器時代には隠岐の島町今津の東船遺跡で黒曜石製の台形様石器と細石刃核が出土している。同地区の森遺跡では黒曜石製の尖頭器が出土しており、当地区に遺跡がまとまっている。

縄文時代の遺跡は、ほとんどが西郷湾内沿岸部に所在している。前期を中心とする遺跡として宮尾遺跡（隠岐の島町東郷）が、西郷湾の東湾ともいうべき奥の小半島部に位置している。時代が下るに



第１図　大座西遺跡の位置



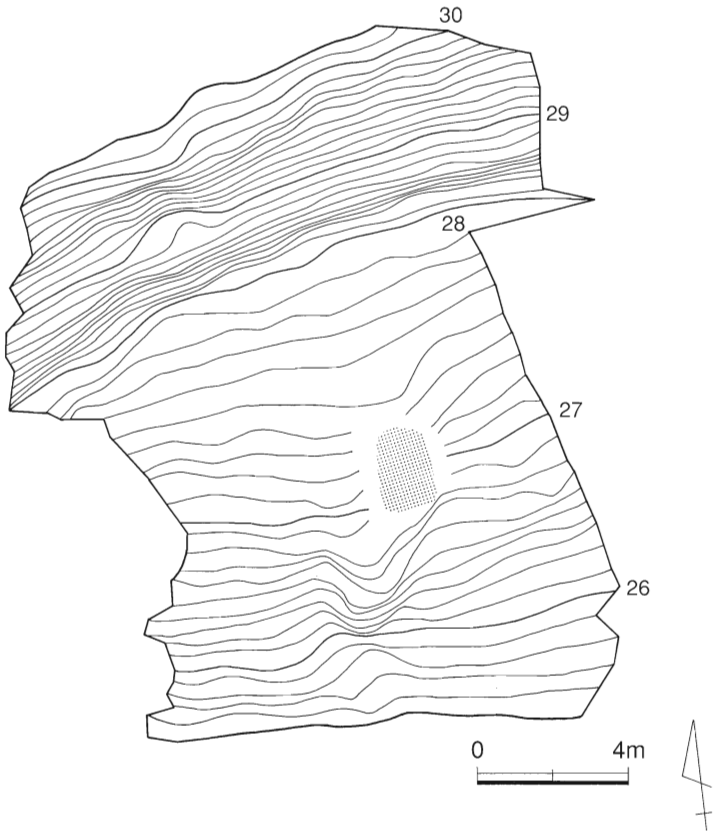
第２図　大座西遺跡と周辺の遺跡（S＝1/50000）

表１　大座西遺跡と周辺遺跡一覧

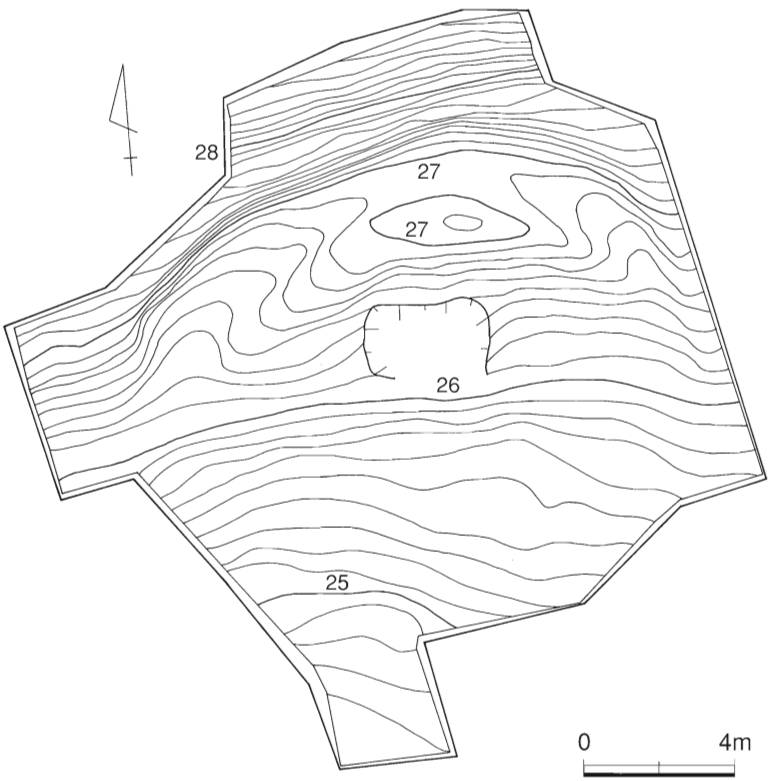
地図番号	遺跡名	地図番号	遺跡名	地図番号	遺跡名	地図番号	遺跡名
1	大座西遺跡	23	能木原古墳群	47	子安神社古墳	71	天神古墳群
2 A	御崎谷遺跡	24	能木原古墳群	48	平東古墳群	72	西郷公園古墳
2 B	大床遺跡	25	甲の原遺跡	49	釜山古墳	73	半崎古墳群
2 C	御崎谷Ⅱ遺跡	26	宮の前遺跡	50	平西の古墳	74	清久寺裏遺跡
3	国主塚古墳	27	宮の前１号墳	51	平神社古墳	75	ヘギ遺跡
4	森遺跡	28	宮の前２号墳	52	本先古墳	76	ヘギ古墳
5	奥田Ⅰ遺跡	29	玉若酢命神社境内古墳群	53	小松城跡	77	登具トンネル遺跡
6	奥田Ⅱ遺跡	30	岩泉古墳	54	斎宮遺跡	78	宮尾古墳群
7	奥田Ⅲ遺跡	31	神殿古墳群	55	船ヶ谷古墳	79	宮尾遺跡
8	飯の山横穴墓群	32	神殿古墳群	56	隠岐国分寺跡	80	神米遺跡
9	高井古墳	33	玉若酢命神社境内古墳群	57	野中西遺跡	81	神米古墳群
10	くだりま遺跡	34	権得寺跡	58	野中東遺跡	82	小田横穴墓
11	西田古墳	35	椿古墳	59	高城遺跡	83	小田西光寺古墳
12	磯中学校脇古墳	36	下西御崎神社古墳群	60	尼寺原遺跡	84	宮田城跡
13	大座古墳群	37	ヒノメサン古墳群	61	大光寺跡	85	小田古墳
14	下西海岸遺跡	38	馬場遺跡	62	名田古墳群	86	水産高校西側横穴墓
15	国府尾城跡	39	斎京谷南古墳群	63	月無遺跡	87	飯田小学校裏古墳
16	白髪古墳群	40	ハサコ古墳群	64	八田横穴墓群	88	津井古墳群
17	国府原館跡	41	斎京谷古墳群	65	要木遺跡	89	湊遺跡
18	甲の原古墳群	42	田井古墳	66	大城遺跡	90	蓮華寺跡
19	甲の原古墳群	43	日記古墳	67	大城四隅突出型墳丘墓	91	蓮華寺山経塚
20	大将軍遺跡	44	八尾川流域条里遺跡	68	大川神社古墳	92	東船遺跡
21	大将軍遺跡	45	中山遺跡	69	西郷小学校１号墳		
22	能木原遺跡	46	中山古墳群	70	西郷小学校２号墳		

第３図　大座西遺跡周辺地形図（S＝1/1000）

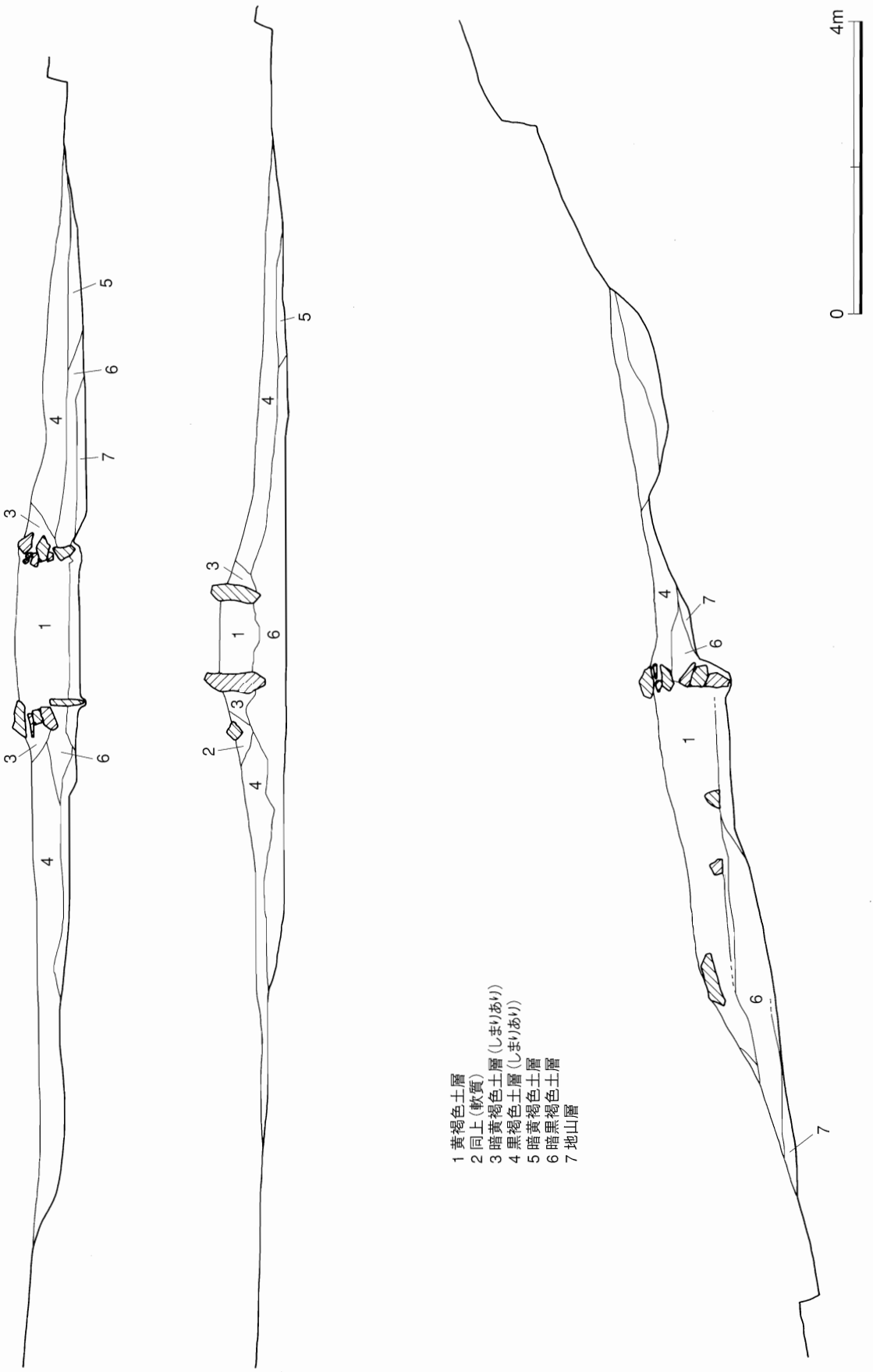
つれて大座西遺跡に隣接する西郷湾西方にも見られ、前期末から後期の下西海岸遺跡（同町下西）、後期を中心とするくだりま遺跡（同町下西）などがある。宮尾遺跡では条痕文土器や爪形文土器が見つかっているが、この条痕文土器は本土山陰側の佐太講武式に比定されるように、他の遺跡の縄文土器も、器形・文様等本土側とよく似た歩みが見られる。弥生時代の遺跡としては、前期～中期の土器が月無遺跡（同町八田）から八尾川改修工事中に見つかっている。その下流の小高い丘陵上にある大城遺跡（同町西町）では、スタンプ文土器が見つかっており、さらに後期の四隅突出型墳丘墓も発見されている。主体部からは弥生土器の他に管玉が出土している。古墳時代では前期の古墳はまだ見つかっていないが、中期から後期にかけての古墳が八尾平野の西側と南側の丘陵地帯に集中している。早い時期の古墳としては５世紀代の斉京谷古墳群（同町下西）がある。直径約25ｍの円墳で大刀や鉄鏃等が出土している。６世紀になると、小円墳が多数築かれるようになり、また前方後円墳も造られるようになる。島後最大の前方後円墳としては、八尾平野の西側に平神社古墳（同町平）がある。全長47ｍ、後円部径約28ｍ、高さ５ｍの墳丘をもち、くびれ部には横穴式石室が開口している。本報告の大座西遺跡２号墳と同じ尾根には小学校建築時に削平された磯中学校脇古墳や西田古墳があり、１号墳の近くには３基の円墳からなる大座古墳群がある。７世紀代に入ると横穴墓も多数造られるようになり、現在は数穴しか残っていないが、線刻が施されていた飯の山横穴墓群（同町岬）など、著名な遺跡も存在する。奈良時代以降については、八尾平野に条里制も確認され、八尾平野の北側丘陵には国分寺・国分尼寺跡、南側の台地には国府が所在したとされるが、正確な位置は不明である。中世の遺跡は島内各所に城跡が築かれているが、館跡を伴う国府尾城跡（同町港町）が最大の城跡である。近世



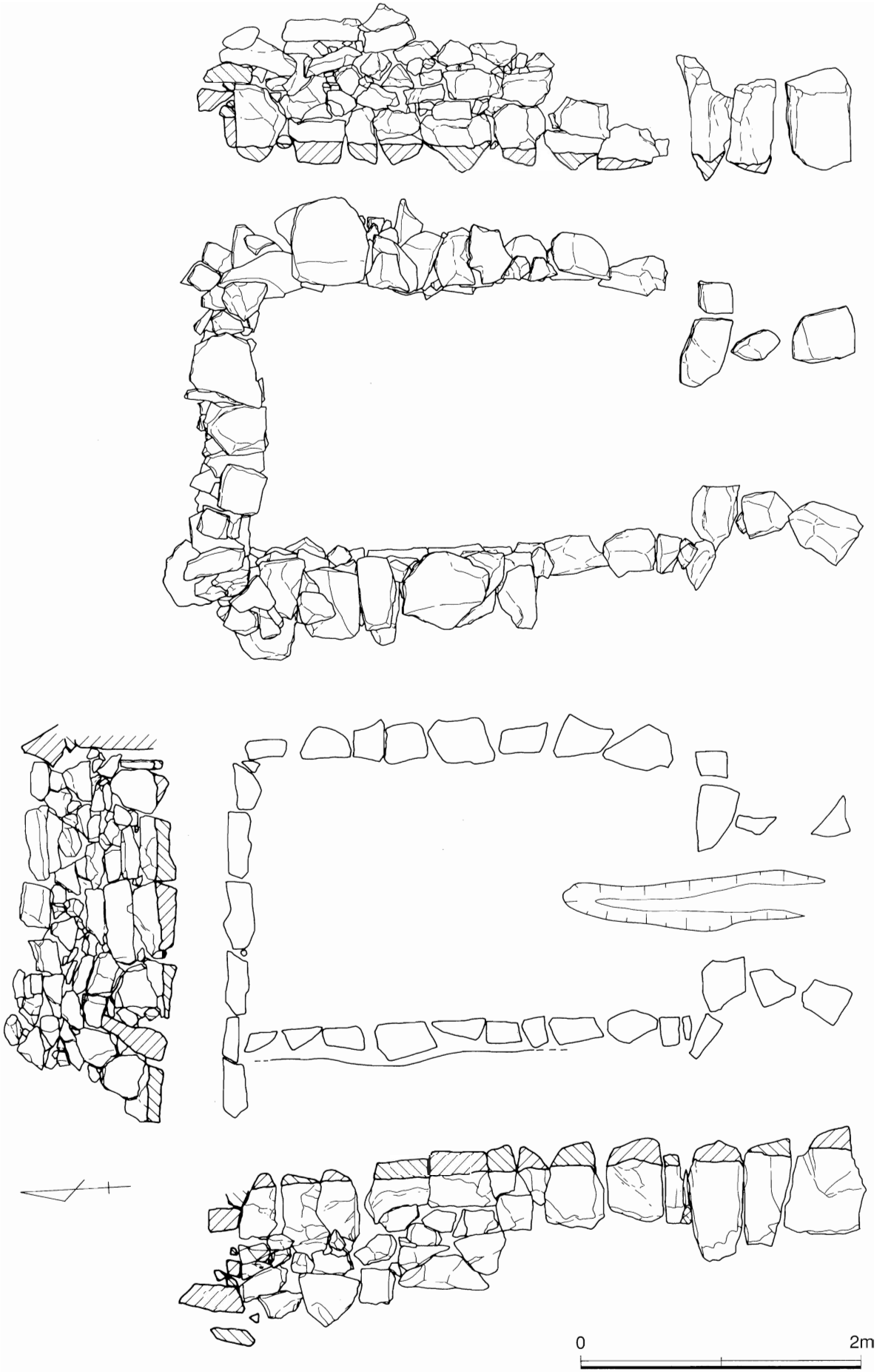
第 4 図　大座西遺跡 1 区調査前地形測量図（S＝1/200）



第 5 図　大座西遺跡 1 区調査後地形測量図（S＝1/200）



第 6 図　大座西遺跡 1 号墳土層断面図（S＝1/80）



第 7 図　大座西遺跡 1 号墳石室実測図（S＝1/40）

については研究が進んでおらず、今後の課題といえる。これ以降の遺跡としては同町岬町の御崎谷遺跡と御崎谷Ⅱ遺跡で日露戦争に関係する望楼跡と官舎跡が検出され、同じく大床遺跡からは第二次世界大戦時の防空監視哨が確認された。

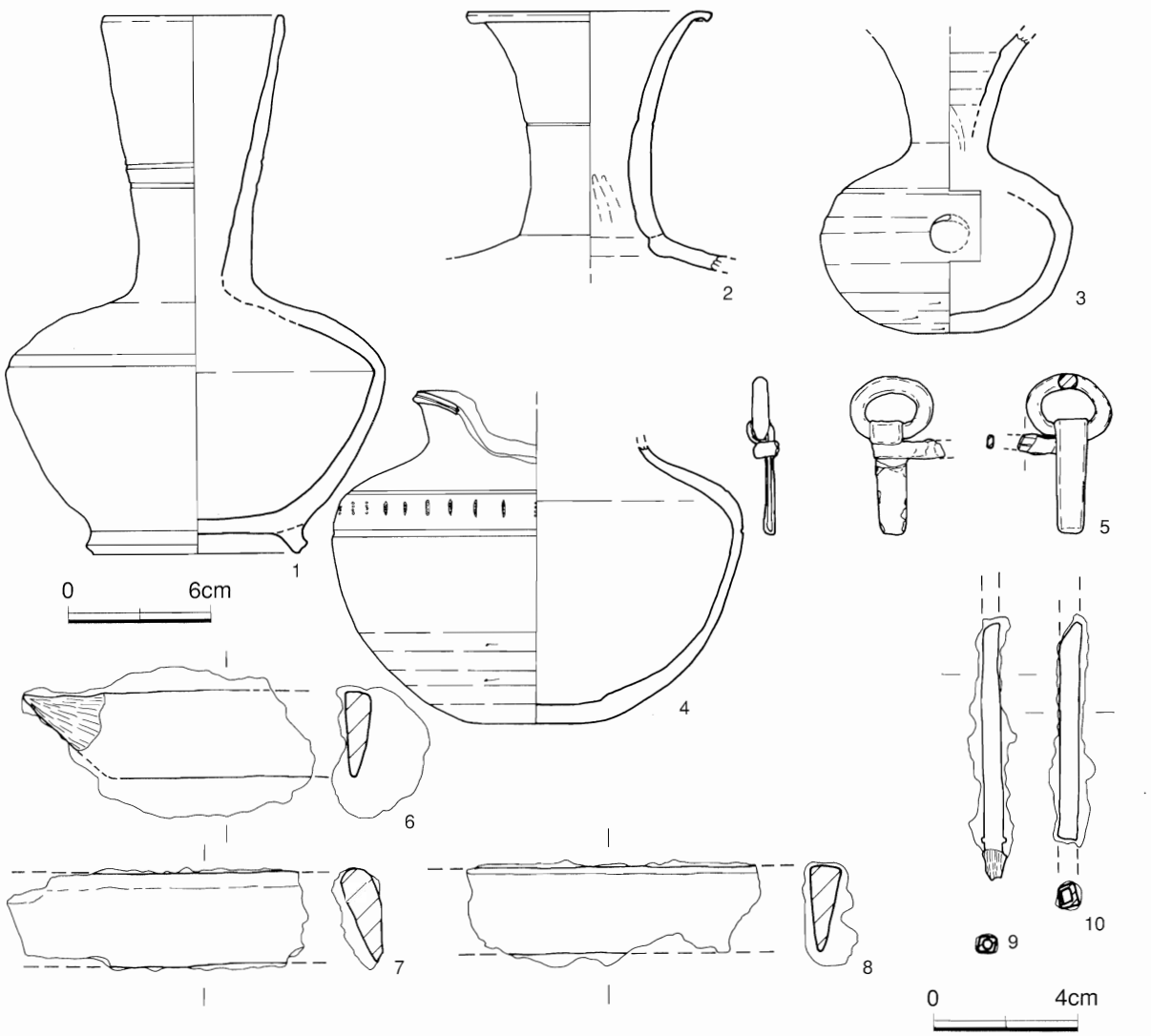
第２章　調査の概要

当遺跡は下西地区に所在し、西郷湾に面した丘陵に位置する。本報告では便宜上１号墳が確認された地区を１区、２号墳が確認された地区を２区としている。

第１節　１区の概要

１号墳が所在する１区は磯中学校背後の標高約21～27ｍの丘陵斜面に位置し、緩やかな斜面に位置する。墳丘の南側は旧磯中学校校庭の造成工事により削られ、崖状になっている。当区からは１号墳が確認されたのみでその他の遺構は確認されなかった。

１号墳は標高25.75ｍ～27ｍの急斜面に造られた古墳で、周溝の形態から円墳と判断される。直径約



第８図　大座西遺跡１号墳　出土遺物実測図（S＝1/3・1/2）

11mの規模と推定される。主体部は横穴式石室である。北側周溝部分から須恵器壺等が検出された。

第２節　１号墳の概要

１号墳では、発掘により調査区北側の山際に周溝を検出することができた。墳丘の北側に残存していた周溝の幅は約１ｍ、断面形はＵ字に掘られ、深さ約50㎝である。周溝の東端は石室の奥壁の延長で消えており、西端は奥壁より約１ｍ南で消えていた。東端から西端にかけて弧を描いており円墳と考えられる。墳丘は盛土により築造されているが、石室は地山を50㎝程堀り込み築かれている。盛土の範囲は石室中心から、東端で約5.5m、西端で約6.5mである。

本古墳の主体部は、墳丘のほぼ中央に、南向きに開口する横穴式石室である。調査時にはすでに、天井石は削平と石室内への崩落のため、確認することができなかった。石室内部には土砂も充満しており、作業の危険性から崩落礫と土砂を取り除いてから作業を行った。

床面の平面形は縦長長方形で、玄室内の奥行きは左壁で3.1m、右壁で3.1m、奥壁部で幅1.8m測る。羨道は幅約80㎝を測り、両袖式の石室である。入口側には左右両側に約80㎝程の石が立てて据えてある。石室中央部には入口に向かって傾斜する深さ約８㎝程の排水溝が設けてある。奥壁、左右側壁の石積方法はほぼ同様で、下から一段目は床面を掘り込んで大型で方形の石を組み、その石を支える暗黒褐色土を盛っている。その後２段目、３段目の側壁を積み上げ、暗黄褐色土を盛っている。２段目、３段目には小形の石を積み重ねてほぼレベルを揃えてある。奥壁と右壁の石組みの関係は、奥壁が右壁に接して積まれているが、奥壁２段目の石はせり出させてのせる形で積まれている。さらにその上には右壁３段目の大型の石をせり出たせてのせ、たがいちがいに組み合わせて構築することにより、両壁面の関係を強化している。奥壁と左壁もほぼ同様で、左壁が奥壁に接して積まれており、左壁１段目がせり出しており、その上に奥壁の２段目が積み重ねられ、たがいちがいに組み合わされている。入り口部分は１段目しか残っておらず不明である。壁は全体的に内傾気味に積まれている。

石室内は盗掘が行われたと考えられ、須恵器甕片が４点、鉄鏃が２点、大刀３点、大刀の足金具１点が検出されただけであった。須恵器の甕片は同一個体で、左壁中央から外面を上にむけた状態で出土した。その他の出土位置は不明である。周溝の中央からは長頸壺が東側に倒れた状態で１点、割れた状態の壺が１点、長頸壺の頸部が１点出土している。

第３節　１区の出土遺物

１号墳を中心とする１区では、須恵器や土師器、鉄器、銅製品、石器が出土している。１号墳以外から土師器の甕と黒曜石の剥片が出土しているが図化はしていない。第８図１と２は須恵器の長頸壺である。１は頸部から口縁にかけて２条の沈線が施されているが、全周していない。肩は張り、高台は貼り付けである。２は口縁から頸部まで残っている。外面に１条の沈線が施されている。３ははそうである。口縁部は欠損している。底部はヘラ削りである。４は短頸壺で肩部には２条の沈線の間に刺突文が施されている。５は銅製品の大刀の足金具である。環を薄い銅板が巻き込み、軸となっている。この軸に直交するように革部分が残っている。縦佩きの大刀の金具と考えられる。６から８は大刀の破片である。全て直刀と考えられる。６は刃部先端が残っている。７と８は刃部中程の破片であろうか。９と10は鉄鏃である。９は茎部に木質が残っている。形状から長頸鏃の破片と考えられる。

第４節　２区の概要

２区は１区の約45m南西に位置している。磯中学校の南西にある丘陵尾根の先端に位置している。尾根は調査区より西郷湾側は急斜面となっており、下方には道路がある。海蝕や道路建設等により丘陵が削平されているが、湾に近接しているので尾根が大きく伸びることは無いと考えられる。

確認された遺構は調査区南東から２号墳の横穴式石室が、他に溝状遺構（SD-01･02）が２基、土坑（SK-01～04）が４基検出された。出土遺物としては須恵器や土師器、鉄器、銅製品、石器が出土している。このほとんどは２号墳の石室から出土している。土師器は古墳時代の甕が、石器は黒曜石の剥片が出土しているが、本報告では図化していない。

第５節　２号墳の概要

２号墳は横穴式石室で標高21ｍあたりに築かれており、１号墳より６ｍ程低い位置であった。前述の通り、墳丘の南西側と東側は道路などの造成工事により削られて崖状になっており、斜面の際に位置している。戦後の開墾により墳丘は上部大半及び羨道部入口部分は削平されていたが、残存する石室の中心と思われる箇所から十字ベルトを設置し、土層断面の確認をしながらの調査を行った。その結果、墳丘は丘陵尾根に盛土と地山整形により築造していることが判明した。盛土は、石室中心から東側で約６ｍ、西側で約3.5ｍの範囲で確認できた。

石室は、奥壁、側壁ともに基底部しか残っていなかったが、大型の長方形の割石を用いている。石室の構築方法であるが、最下段の石を据えるため地山を掘り込んでいる。西壁下は約20㎝堀り込んでいるのに対し、東壁下は35㎝掘り込んでいる。これは石の大きさが違うため、据えたときの石の上面の高さを揃えるためと考えられる。最下段を据えた後、赤褐色土で支える。その上に黄褐色土を盛っている。東壁の根石は他の根石と比べ約10㎝程深く掘り窪めてある。これは基底部のレベルを揃えるためと考えられる。西壁、東壁ともに奥壁に接する部分には大型の石を立てて据えてある。

床面には、奥壁に平行するように約80㎝の平石４枚が２列に敷かれていた。レベルはほぼ同じで標高約21ｍである。約50㎝ごとの等間隔で据えてあることから、棺台であったと考えられる。

土層断面を見る限りでは周溝は確認することができず、墳形は不明である。

石室内の遺物出土状況であるが、石室には盗掘の痕跡もなく、出土した遺物は床面に接して出土していることから原位置を保っている考えられる。

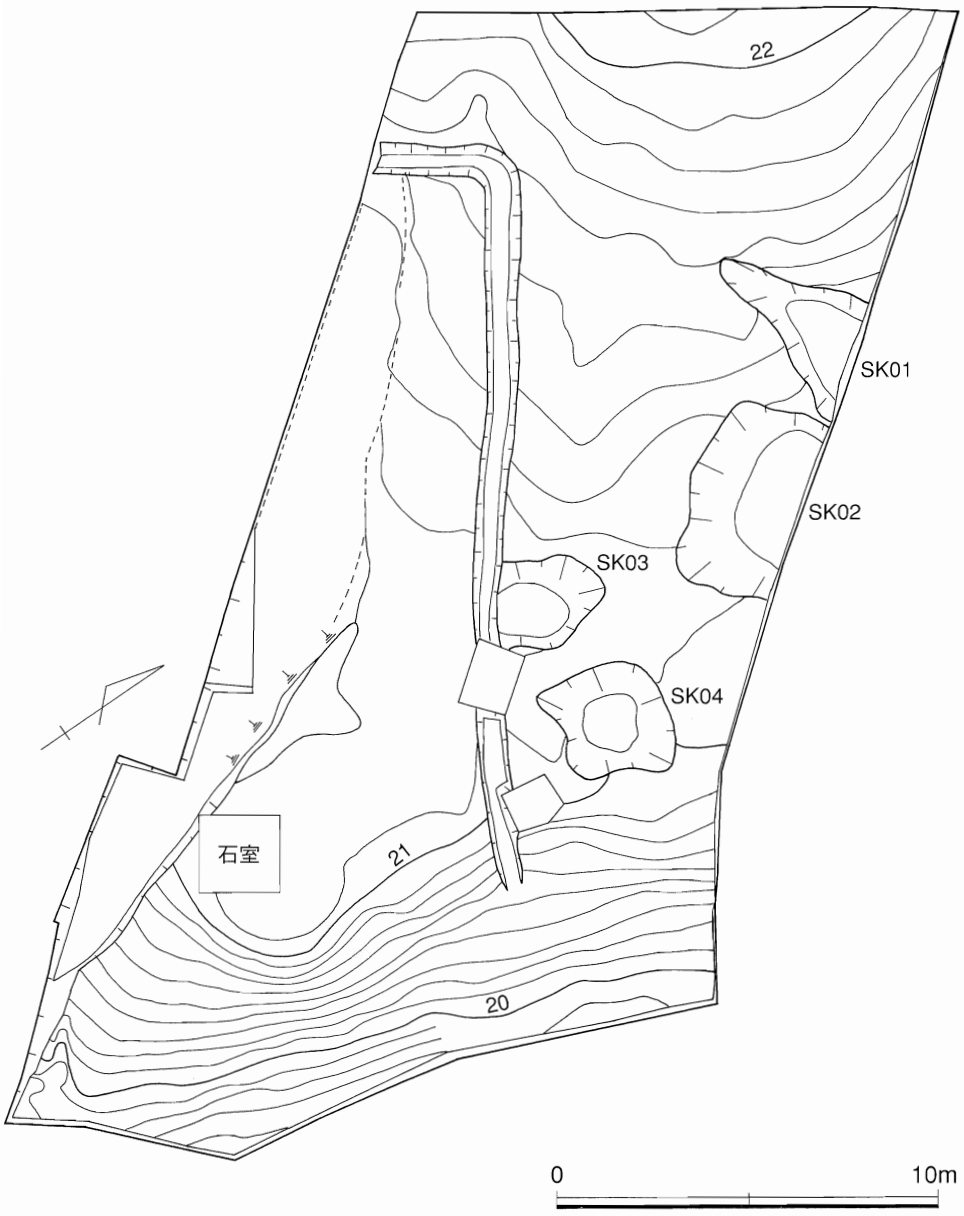
遺物は各所でまとまって出土している。まず奥壁と右壁の隅には積み重ねられたように須恵器と土師器が集中して出土している。土師器の壺は割れた状態で検出され、両隣に倒れた状態の広口壺と逆位状態の直口壺が検出された。それより内側には土師器壺が正位の状態で３点、また奥壁中央付近から須恵器坏身、土師器壺、須恵器坏身と積み重なった状態で出土し、奥壁中央部付近からもはそう、蓋坏が3点、その下から提瓶が検出された。東壁付近から直口壺が南側に口縁を向けた状態で検出された。

また石室入口中央付近からは暗文入土師器坏が伏せた状態で検出され、その東隣から２対の須恵器蓋坏が伏せた状態と、上を向いた状態で検出された。さらに石室中央部に割れた状態の須恵器蓋坏、高坏、土師器椀が検出された。

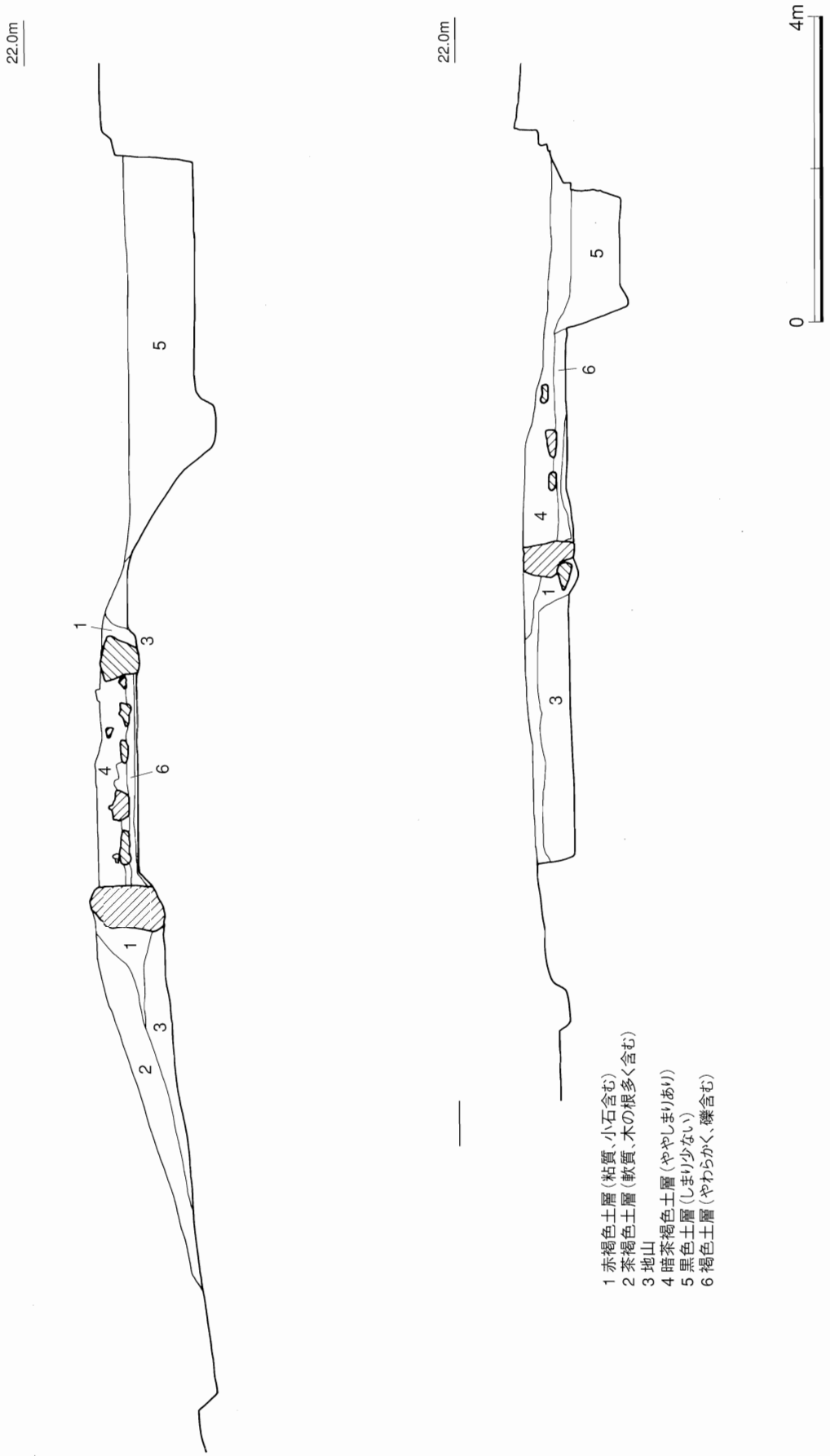
玉類は、奥壁中央付近棺台の北側中央付近を中心に集中して出土した。勾玉10点、切子玉１点、ガラス玉１点、土玉３点である。

鉄器は大刀が奥壁に立てかけた状態で刃部を下に向けたものが２本、右壁中央からは側壁に平行に置かれ刃部を外に向けたものが１本、奥壁と右壁の角の土器の下から４本の計６本検出された。鍔は大刀と離れて２点、矛先を西に向けた状態で鉄矛が１点検出された。鉄鏃は玉類と同じところから矢先が残っているもので15点出土した。他に鉄斧が奥壁付近から４点出土していた。

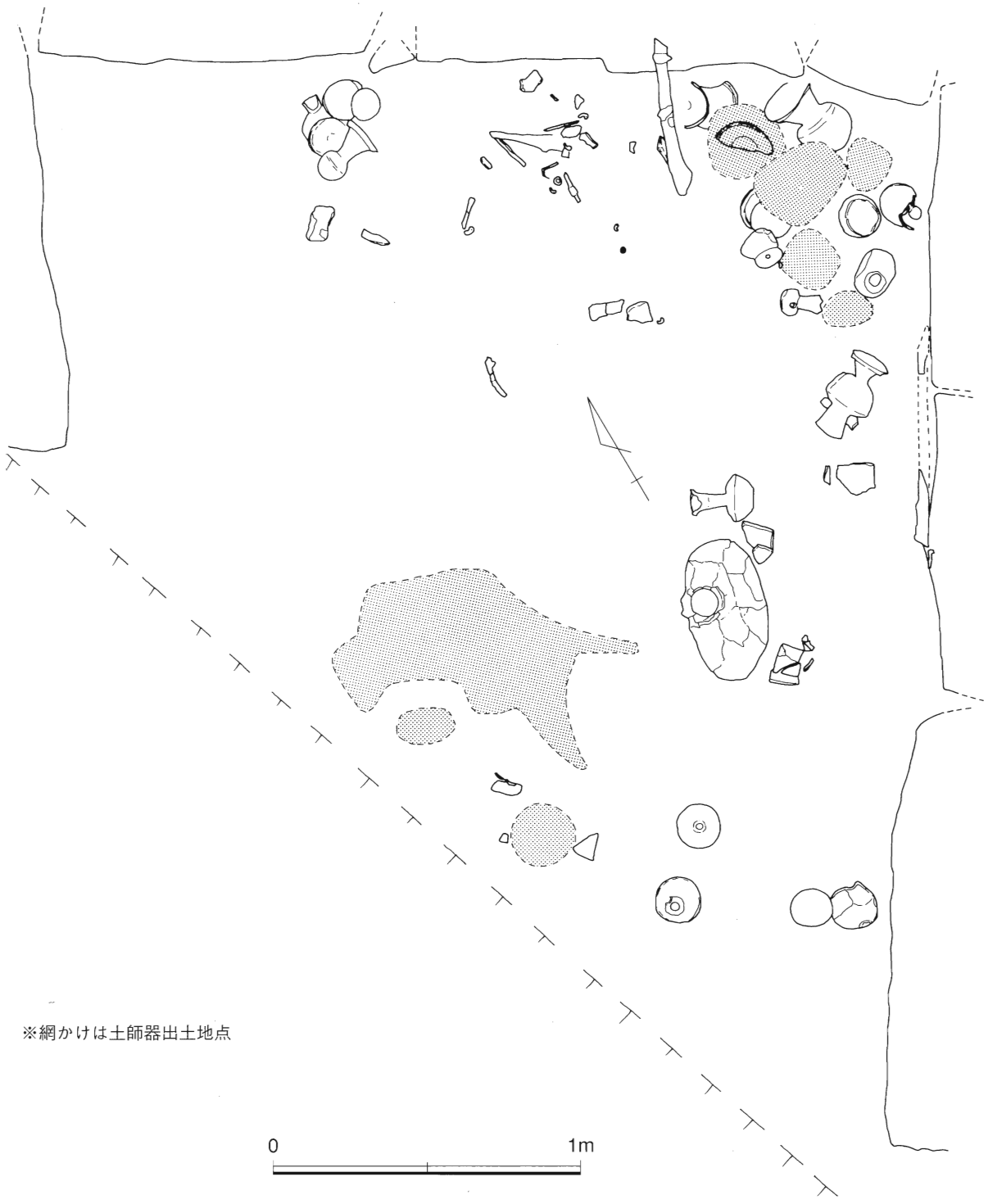
銅製品としては耳環が棺台の上から４点（内１点が鉛製）が出土した。他に銅鋺が石室南側を切っているSD-01から出土していた。石室内にあったものと考えられるが、元の位置は不明である。



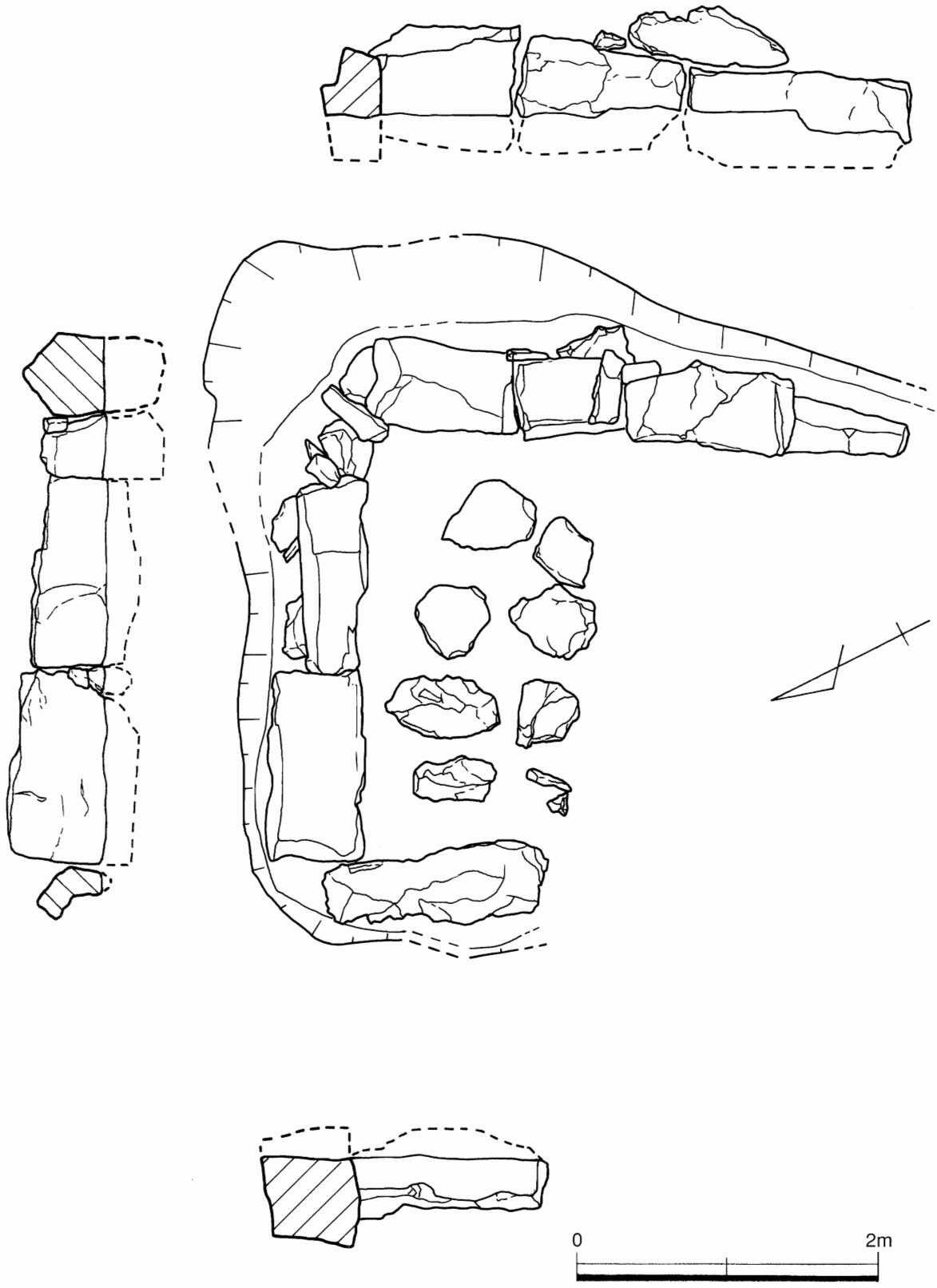
第 9 図　大座西遺跡 2 区調査後地形測量図（S＝1/200）



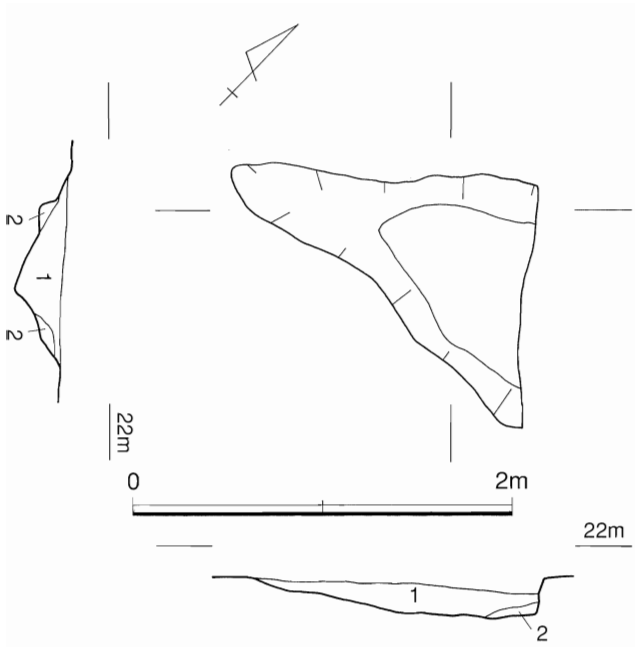
第10図　大座西遺跡２号墳土層断面図（S＝1/80）



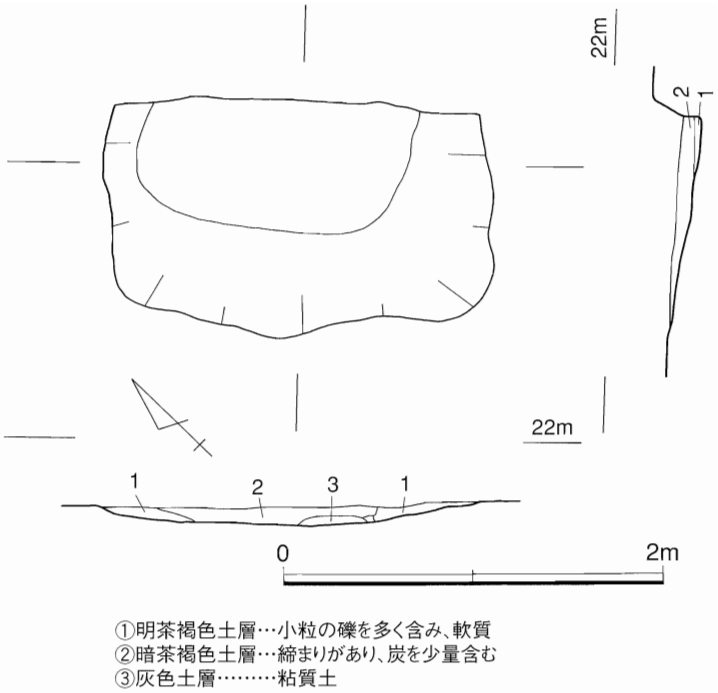
第11図　大座西遺跡２号墳石室内遺物出土状況図（S＝1/20）



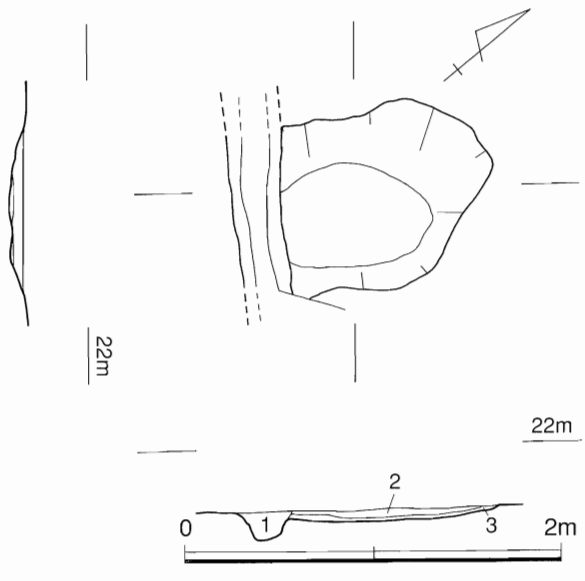
第12図　大座西遺跡 2 号墳石室実測図（S＝1/40）



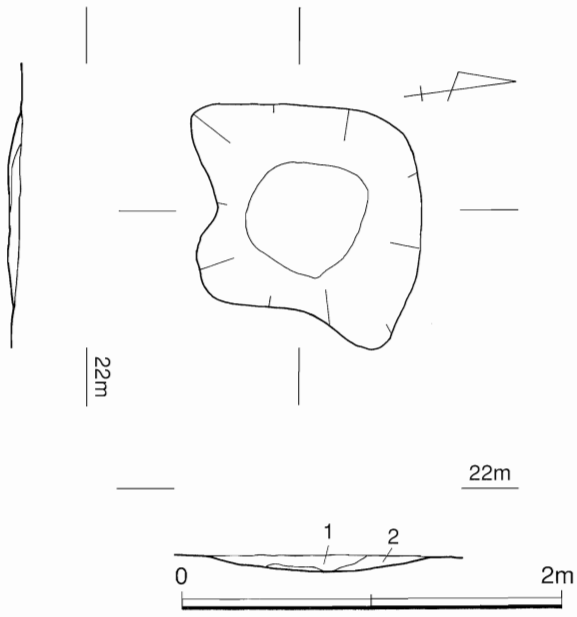
第13図　2 区SK01実測図（S＝1/40）



第14図　2 区SK02実測図（S＝1/40）



第15図　2 区SK03実測図（S＝1/40）



第16図　2 区SK04実測図（S＝1/40）

第６節　２区その他の遺構

SD01

地元の聞き取りによると、調査区南側に戦時中のものと考えられる壕が掘られていた。この溝は調査区西側から石室南側にかけて深さ約２ｍ、幅約１ｍ掘り込んでおり、埋土からは銅鋺や須恵器片が出土した。土層は黒色土が約60㎝程、下層にはしまりのある茶褐色土が約30㎝、しまりがなく木の根を多量に含む赤褐色土が幅12㎝程で地山に沿って溝の北側壁に堆積していた。

SD02

SD01と平行する形で調査区西から東にかけて掘り込んである。深さは約30㎝、幅約30㎝程度で、埋土から陶磁器片などが出土している。SD01を掘り込んで作られており、SD01より新しいもので、戦後の畑作を行っていた頃の溝と考えられる。

SK01

SK01は調査区北西部にあり、幅3.5m、長さ４ｍを測る。暗茶褐色の埋土を掘り下げると、浅いところで約40㎝、深いところで70㎝で底面が検出された。出土遺物はなく、性格・時期ともに不明である。

SK02

SK01の東側で検出されたが、暗茶褐色の埋土を掘り下げると、約20㎝で地山が確認された。埋土中から須恵器甕片が検出された。幅2.5m、長さ５ｍを測る。須恵器甕片が検出されたことから墳丘と同時期の土坑と考えられるが性格は不明である。

SK03

SK02の南側に位置し、暗茶褐色の埋土を掘り下げると12㎝で地山が検出された。埋土中から須恵器高坏が検出された。２号墳で出土している須恵器と同時期にあたり、墳丘と同時期の土坑と考えられる。

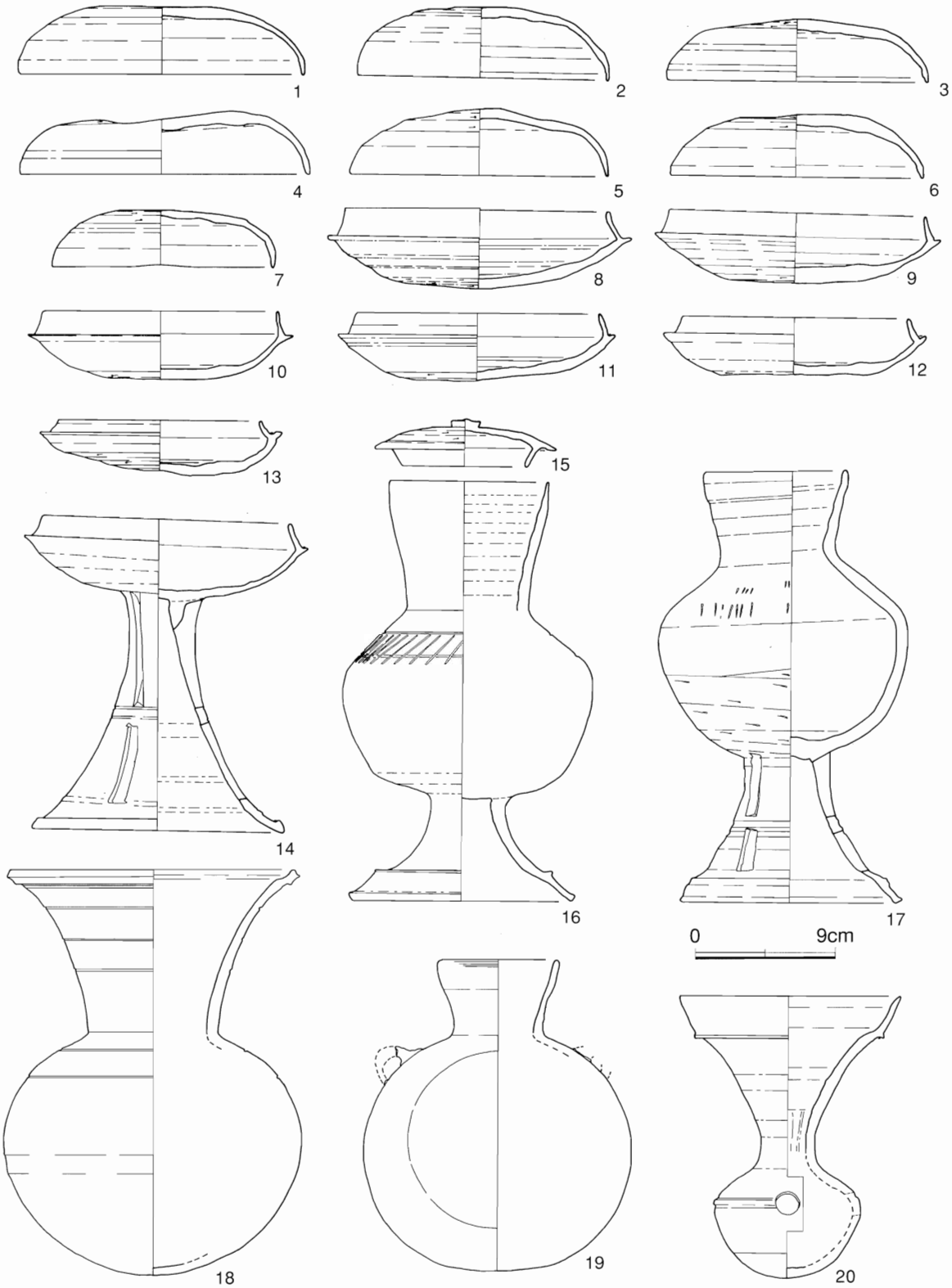
SK04

SK03の北東に位置する。埋土は２層に分かれて、上層から約15㎝程の粘質灰褐色土、暗茶褐色土である。埋土を掘り下げると須恵器甕片が少量検出された。須恵器甕片は古墳時代のものと考えられる。

他の土坑と同時期のものと考えられるが性格は不明である。

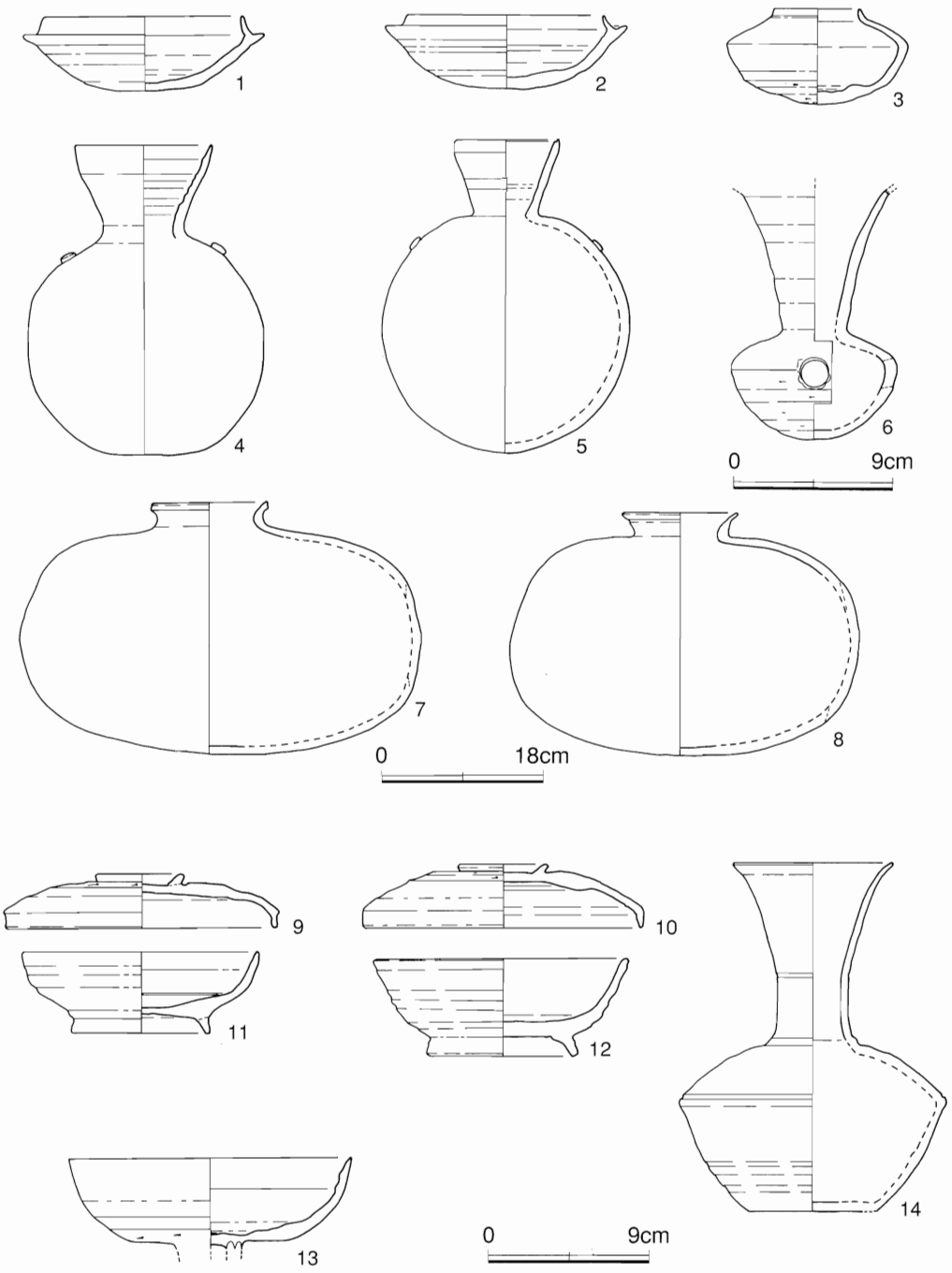
第７節　２号墳の出土遺物

大座西２号墳からは須恵器や土師器、金属器（鉄器、銅製品、鉛製品）、石製品、ガラス製品が出土している。鉄器には大刀や鍔、はばき、鉄矛、鉄鏃、両頭金具、刀子、鉄斧、やりがんながある。銅製品としては銅碗と耳環、帯金具がある。鉛製品と考えられるのは耳環である。石製品は勾玉や切小玉の玉類、ガラス玉は丸玉が出土している。

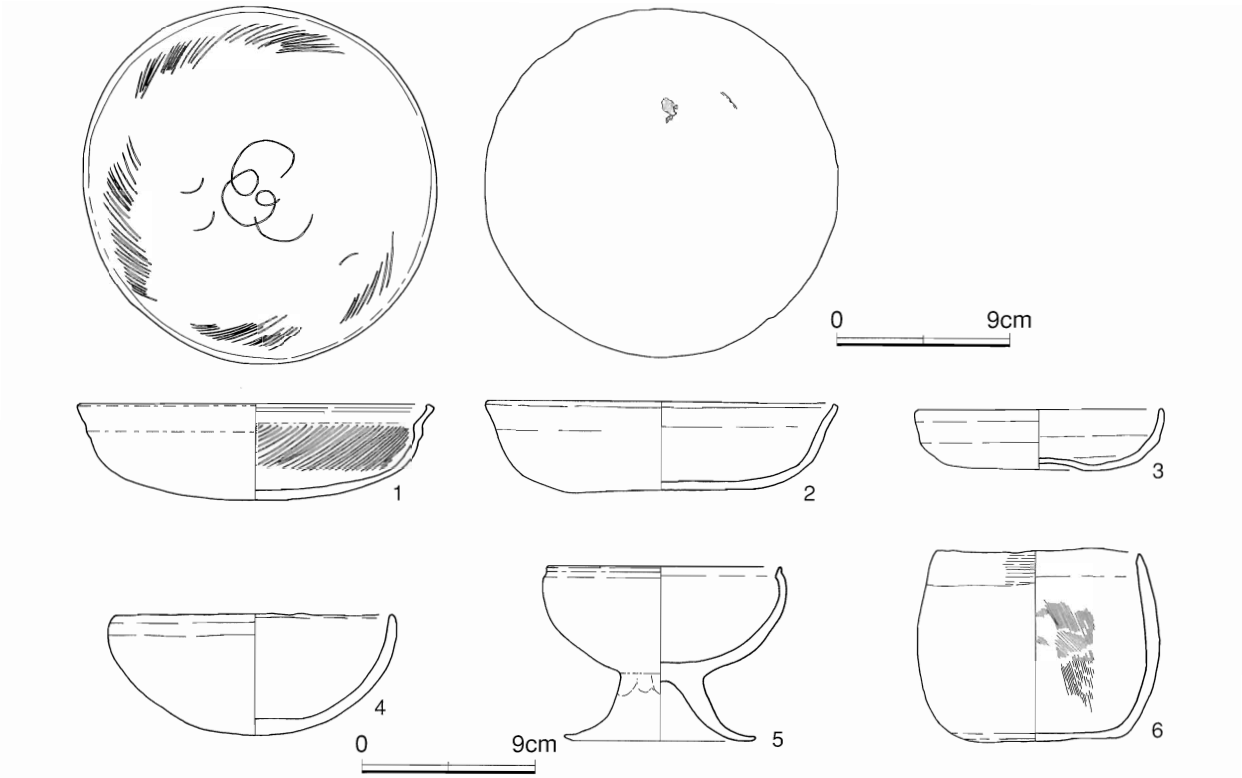


第17図　大座西遺跡２号墳　出土須恵器実測図（1）（S＝1/4）

第17図と第18図は須恵器である。第17図1～7は須恵器の蓋杯の蓋である。1は口径が17.9cmあるが、7は14cmしかなく、かなり小型化している。全て外面上部にヘラ削りが施されている。8～13は蓋杯の身である。8～12に比べ、13は比較的小型である。13は7と対になっていたと考えられる。これらにも底部には全てヘラ削りが施されている。14は高杯である。杯部は8や9とほぼ同じ規格となっている。透かしは2段で3方向に施されている。16と17は脚付きの壺である。16は口縁部がわずかに開き、肩部に刺突文を持っている。脚部に透かしはない。17は脚部に2段で3方向の透かしを持っている。15

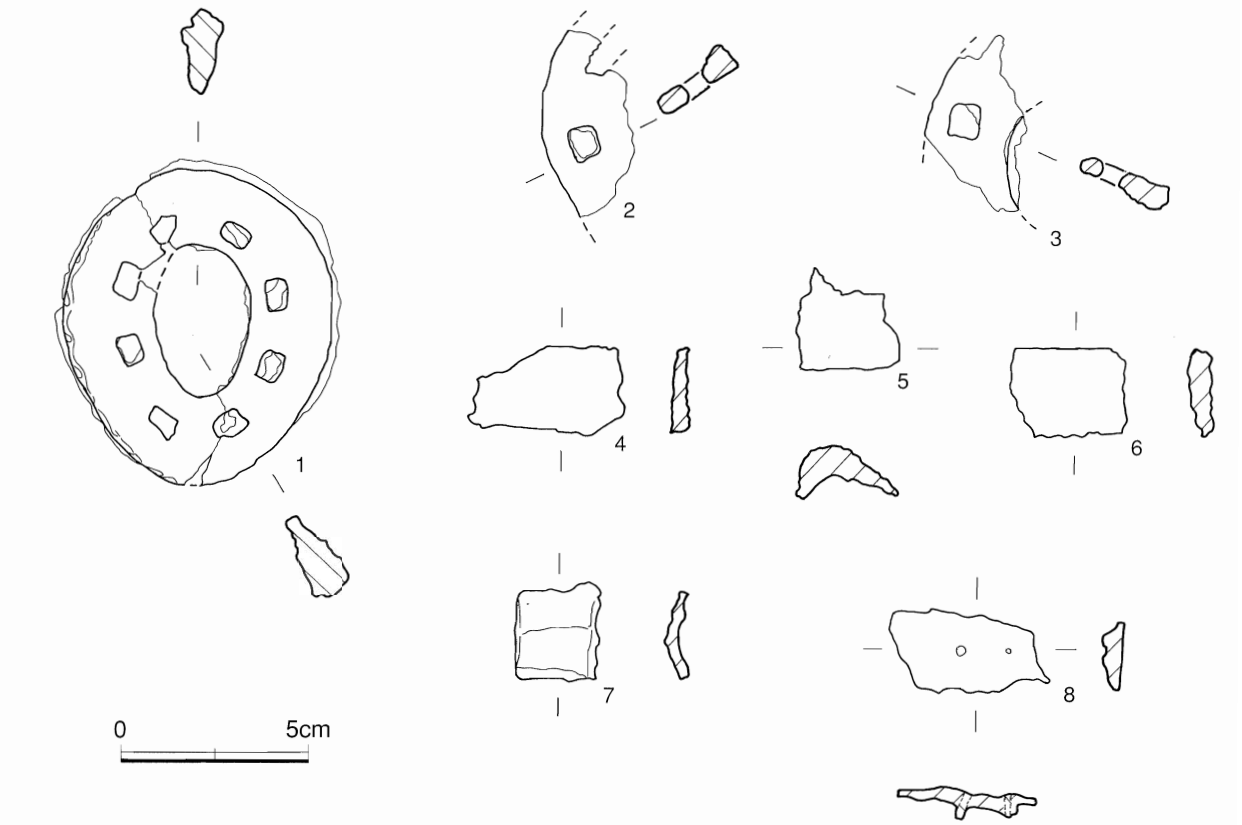


第18図　大座西遺跡2号墳　出土須恵器実測図（2）（S＝1/4・1/8）

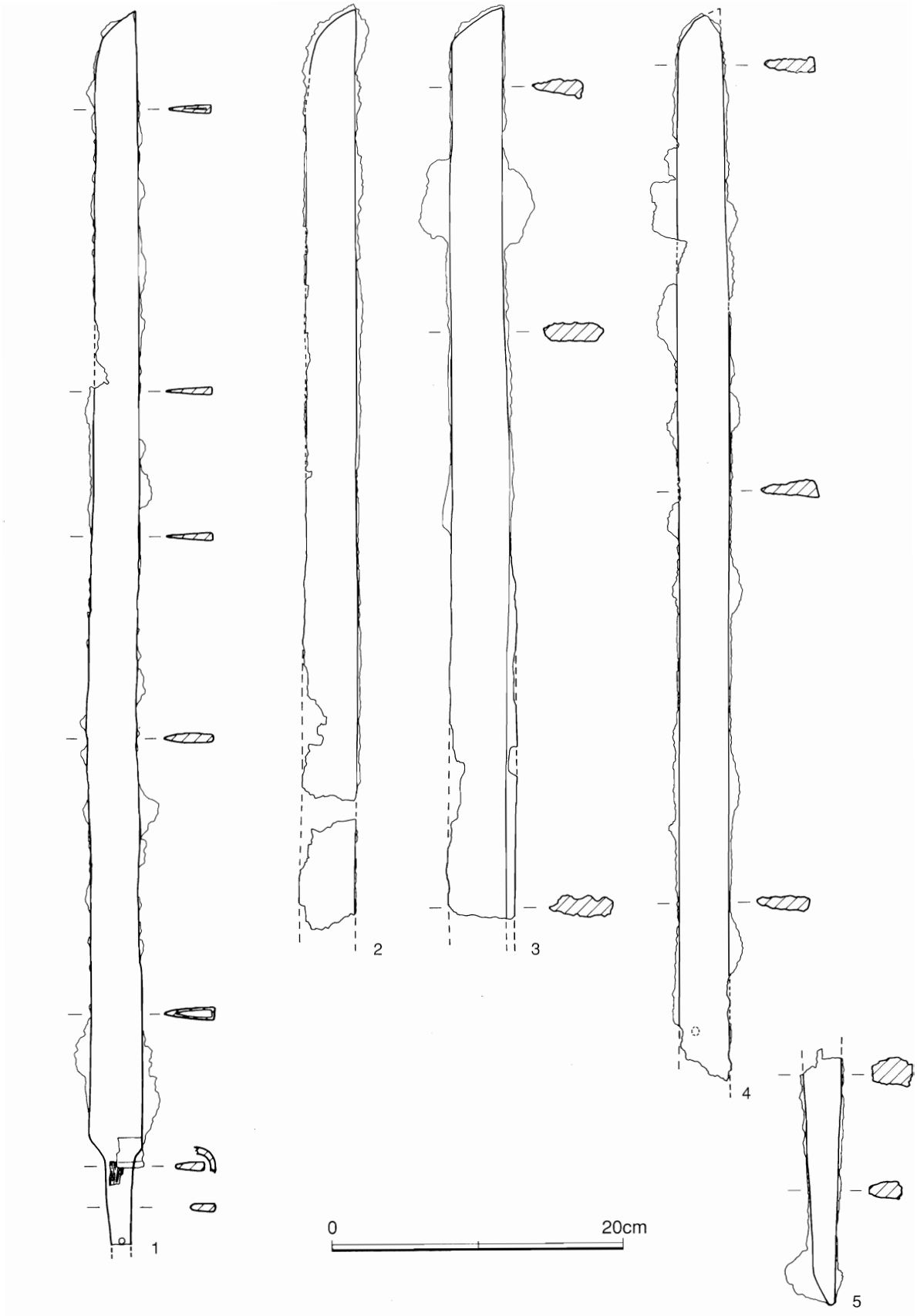


第19図　大座西遺跡２号墳　出土土師器実測図（S＝1/4）

は壺の蓋である。底径から16に付属するものと考えている。18は広口壺である。外面に沈線を数条持っている。19は提瓶で、20ははそうである。第17図の須恵器は７と13は若干下るが、おおよそ６世紀後半に位置づけられる。



第20図　大座西遺跡２号墳　出土鉄器実測図（1）（S＝1/2）



第21図　大座西遺跡 2 号墳　出土鉄器実測図（2）（S＝1/4）

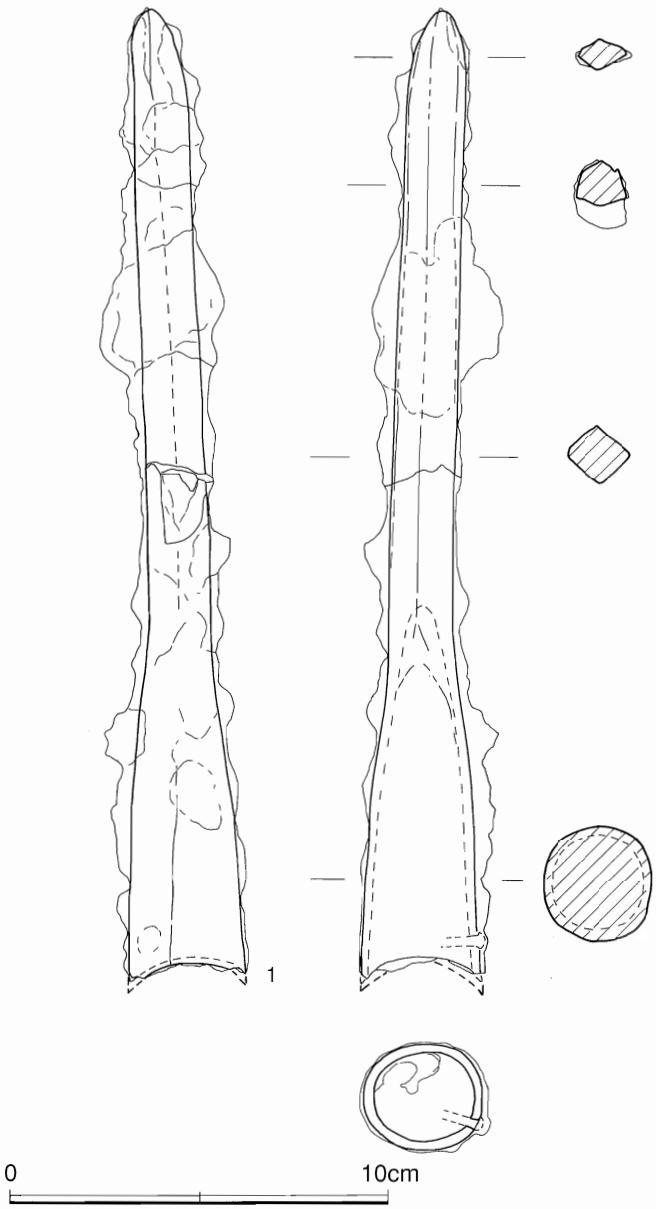
第18図 1～2 は蓋杯の身である。口径が第17図の身に比べ小さい。3は短頸壺で 4 と 5 が提瓶、6 がはそうである。7 と 8 は横瓶である。胴部の長さは 7 が28.5㎝でかなり大きいものである。

9 と10は蓋杯の蓋で輪状のつまみが付いている。11と12は蓋杯の身である。底部に高台が付いている。13は高杯である。14は長頸壺である。肩部が張っている。

1～8 が 7 世紀初頭で、9～14が8世紀初頭と考えられる。

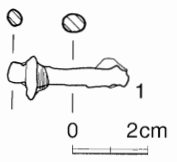
第19図は土師器である。1～4 が坏で 5 が高杯、6 が壺である。

1 は暗文入り坏である。口縁部は 2 段にくびれている。胴部内面に放射状暗文が 1 段あり、底部内面に螺旋状暗文が施されている。さらに底部内面には別の文様があるが、風化のため形態は不明である。胎土は褐色で表面と同一色である。2 も暗文入りの坏と思われるが、風化しており詳細は不明である。口縁部にくびれはないが、胎土は1と同じである。3 は浅い坏で文様はない。胎土は 1 と 2 と同じである。4 は丸底の坏である。胎土は 1～3 と異なり明赤褐色である。5 は高杯である。6 は平底の壺である。4～6 は古墳時代後期に隠岐郡内でよく見られる土師器である。



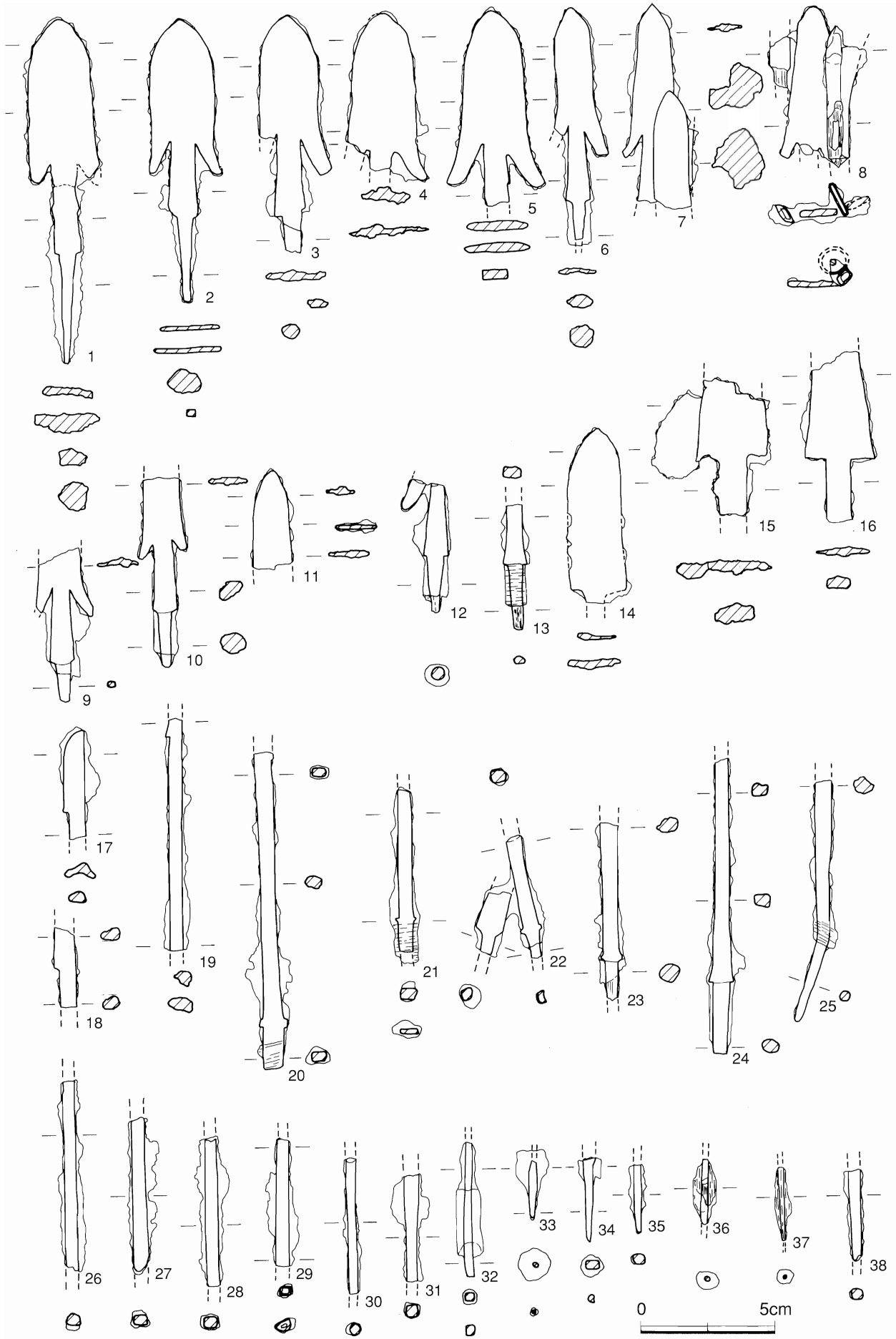
第22図　大座西遺跡 2 号墳　出土鉄器実測図（3）（S＝1/2）

第20図 1～3 は鍔である。1 は 2 つに割れていたが、ほぼ完形に接合する。側面に銀象嵌が施されており、倒卵形である。象嵌は波状文と勾玉状の渦巻文で構成され、側面を全周している。鍔の表面はかなり剥落している。8 カ所の透かしがある。2 と 3 は鍔の破片である。2 に 2 カ所、3 に 1 カ所の穿孔が残っている。同一個体になる可能性がある。これらがどの大刀に付属していたかわからなかった。

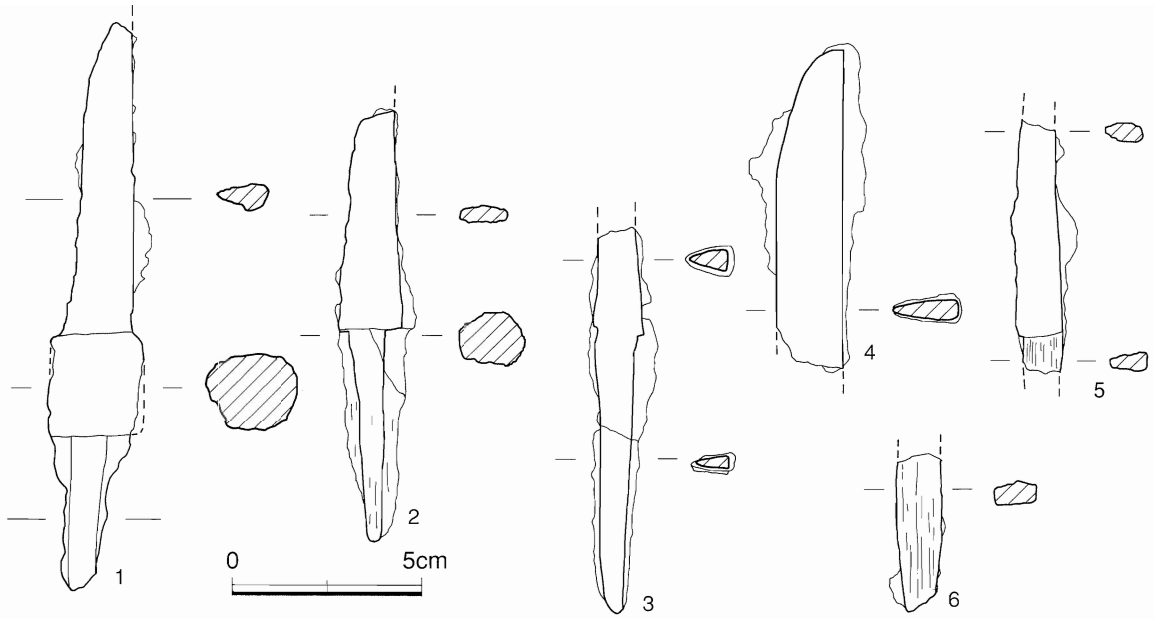


第23図　大座西遺跡2号墳
出土鉄器実測図（4）（S＝1/2）

4～6 ははばきである。これらが同一個体なのかは不明である。7 と 8 は不明鉄器としている。7 は外面に稜を持っている。8 は鉄片であるが 2 本突起が付いている。



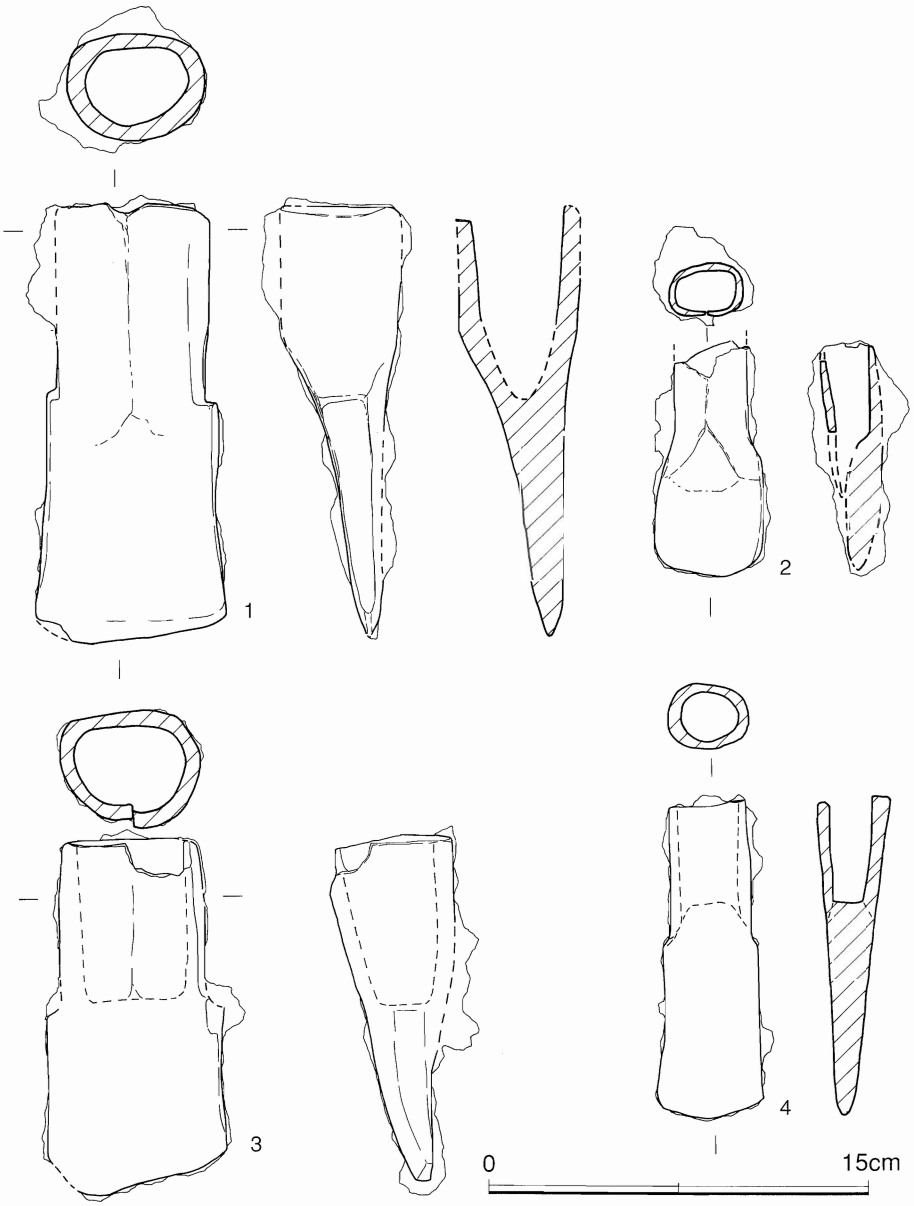
第24図　大座西遺跡２号墳　出土鉄器実測図（5）（S＝1/2）



第25図　大座西遺跡２号墳　出土鉄器実測図（6）（S＝1/2）

第21図１～５は鉄製大刀である。１は茎部の先端が若干欠損しているがほぼ完形の大刀である。両関で、刀身はほぼ直線である。はばきと木質、目釘穴、鉄鏃が付着していた痕跡が残っている。2～4は大刀の刃部である。2～4は直刀である。5は大刀の茎部と思われるが、目釘穴はみられない。5は2～4のいずれかと同一個体となる可能性がある。

第22図１は鉄矛である。袋部はとじ合わせており、目釘も残っている。目釘は片側一方向から打ち込まれている。刃部の断面は先端が扁平な不整六角形で中程が菱形に近い不整五角形、袋部に近くなると不整六角形となる。

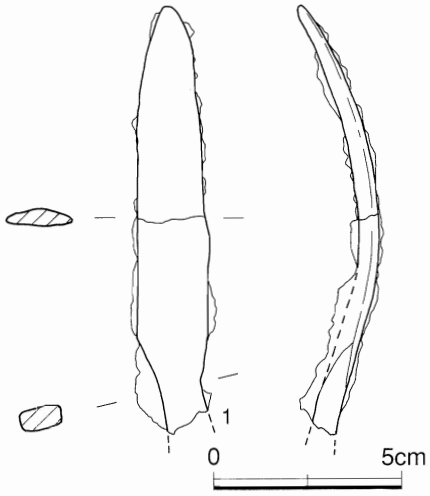


第26図　大座西遺跡２号墳　出土鉄器実測図（7）（S＝1/3）

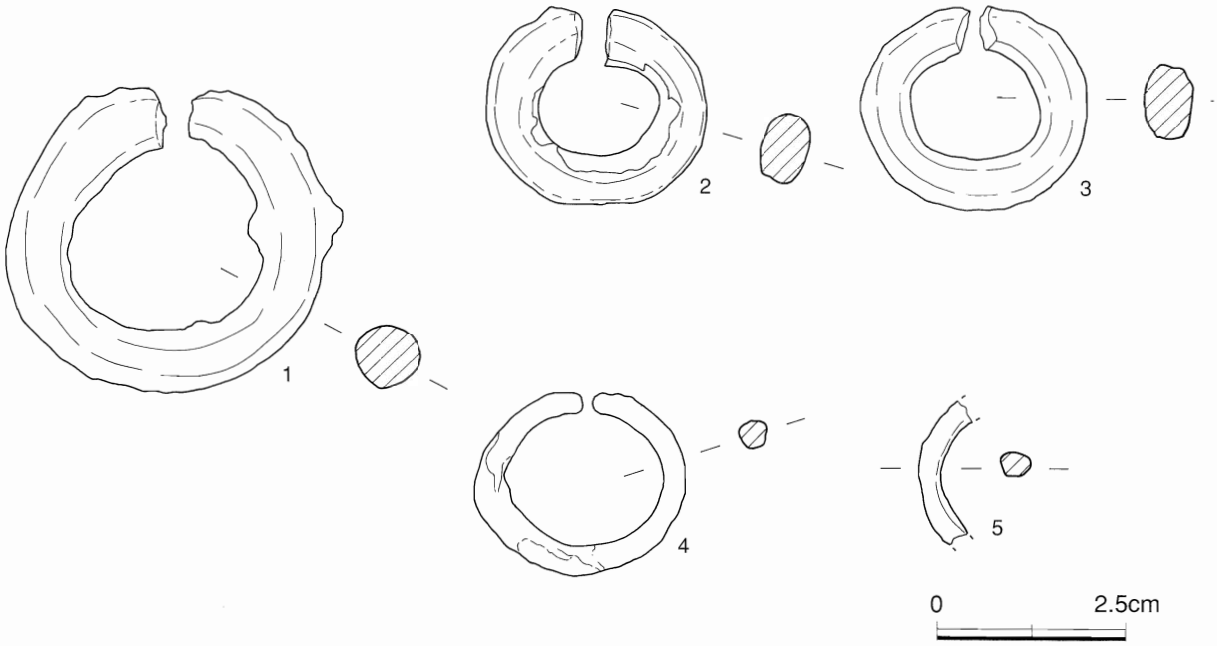
袋部はほぼ正円である。袋端部は山形抉り式であるが、緩やかに内湾する。

第23図１は両頭金具である。両頭金具は弓に装着されるものであるが、用途は不明である。この両頭金具は一方の突起部より先端を欠損している。残っている突起部から中程には木質が残っている。弓に装着されていた可能性があり、２号墳からは弓は出土していないが、本来は弓も副葬されていたが腐朽し、この両頭金具のみ残った可能性がある。

第24図は鉄鏃である。1～16は短頸鏃で17～32は長頸鏃と考えられる。短頸鏃のうち、1～11は鏃身の平面形が柳葉形で、14～16が三角形と考えられる。鏃身関部の形状は1～10、12､13が逆刺で、14～16が直角関である。篦被の形状は残存しているものは全て有篦被であると考えられる。7は３個体



第27図　大座西遺跡２号墳
出土鉄器実測図（8）（S＝1/2）



第28図　大座西遺跡２号墳　出土青銅器実測図（1）（S＝1/1）

が、8は最低４個体、15は２個体が付着している。

長頸鏃のうち17～20には鏃身が残っている。すべて鏃身の平面形が片刃箭で、鏃身関部は全て直角関である。篦被の形状は20と21、22（右）のように棘篦被のもの、24の台形篦被のもの、25のように無篦被のものと存在するようである。22（左）は有篦被の長頸鏃の可能性もあるが、斜関の短頸鏃である可能性も考えられる。26～38は頸部で、33～38は茎部のみであり長頸鏃か短頸鏃か不明である。鉄鏃のうち、頸部が残っているものはほとんどが木質が残存しているものがほとんどであり、鉄鏃は矢柄が装着されていたものと考えられる。

第25図1～6は刀子である。1は茎部から刃部まで残存しているが、刃部は先端を欠いている。

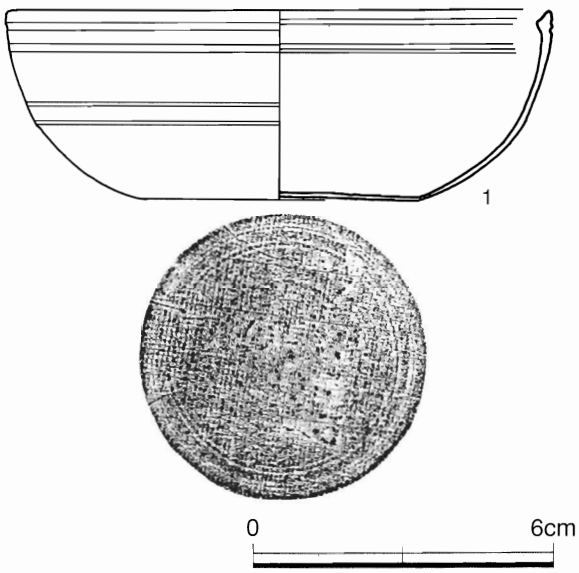
柄元金具が残っており、関の形状は観察できなかったが、茎部と刃部の峰の位置から両関と考えら

れる。茎部には木質が付着している。2は刀子で鹿角製の柄が装着されている。鹿角は茎部の先端まで残存している。両関である。刃部の先端は欠損している。3は両関の刀子である。刃部の先端は欠損している。4は刃部のみである。出土した刀子の中では刃部幅の残りが最も良いものである。5は片関の刀子である。刃部、中子ともに欠損している。中子には木質が残っている。6は刀子の中子としたものである。木質が残存している。

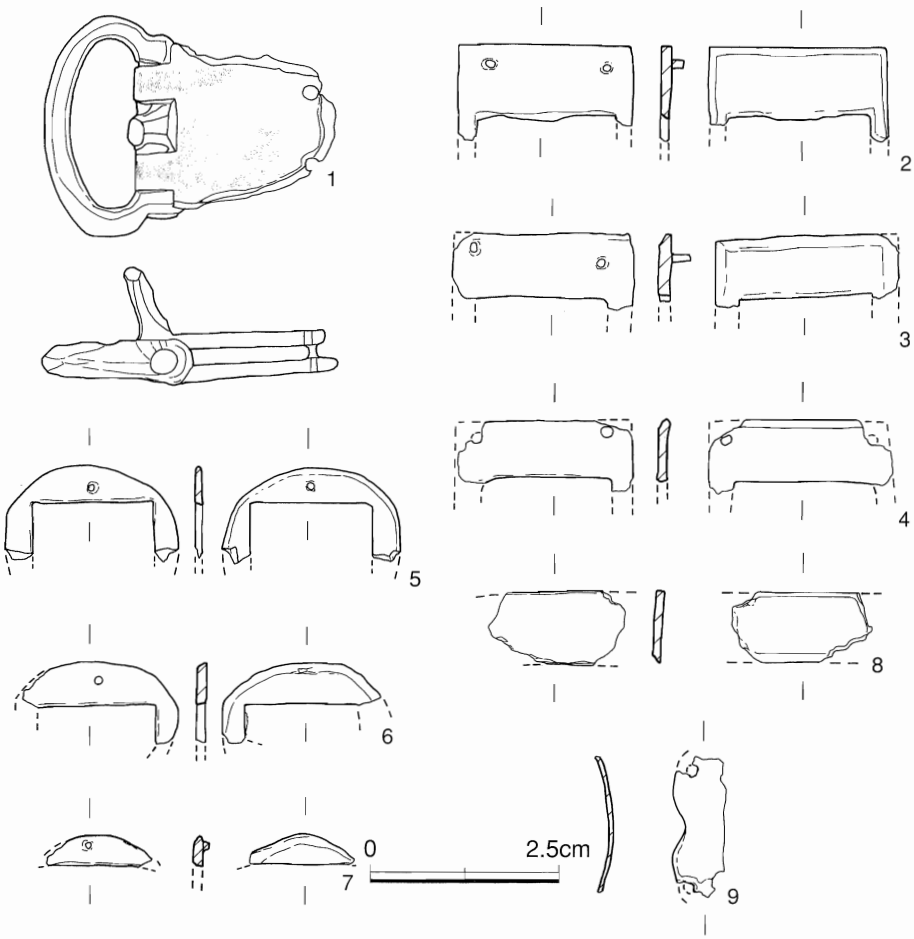
第26図は鉄斧である。1は4点のうち最も大形である。肩部は明瞭である。刃部の側面には鍛打による面取が行われている。袋部はとじ合わせており、接合部分は密着している。2は袋部上端の一部が欠損している。3も肩部が明瞭である。袋部と刃部は別作りである。刃部はかなり傾斜しているが欠損ではなく、研がれた結果と考えられる。4は袋部と刃部が別造りの有肩鉄斧である。

第27図1はやりがんなである。茎部は欠損している。刃部の横断面は山形でしのぎがみられる。頸部は長方形である。

第28図1～5は耳環である。1はX線が全く透過しないため、鉛製の耳環と考えられる。出土したもののうち、最も大きいものである。2と3は表面に銀

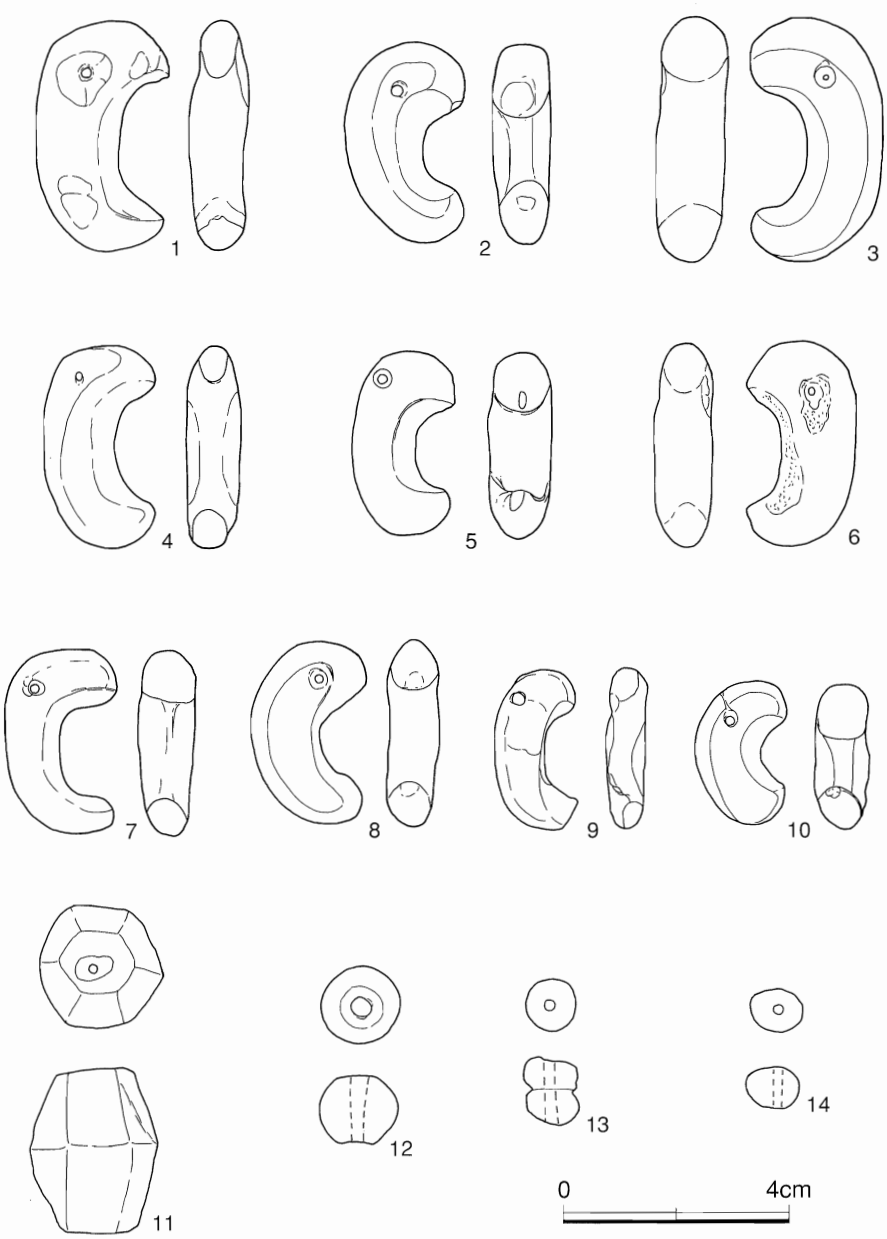


第29図　大座西遺跡2号墳
出土青銅器実測図（2）（S＝2/3）



第30図　大座西遺跡2号墳出土　青銅器実測図（3）（S＝1/1）

板を巻き付けたもので、2つとも内面に銀板が一部残っていた。形状や大きさもほぼ同じことからこれらは一対になると考えられる。4は細身の耳環である。表面は風化が激しく厚みは不明である。5は耳環の破片と考えられる。これも表面が風化しており、破損もしているので大きさ等は不明である。4と5も形状から一対になると考えられる。



第31図　大座西遺跡2号墳　出土石製品・土製品実測図（S＝3/4）

第29図1は銅碗である。胴部と底部は薄いが口縁部は肥厚している。底部内外面に幅の狭い沈線がそれぞれ8本刻まれ、胴部外面には口縁部近くに幅の広い沈線が2本単位で2条（計4本）と、中程に2本を1単位とする2条の幅の狭い沈線が施されている。胴部内面には口縁部の下方に3本で1条の幅が狭い沈線が施されている。底部はわずかに上げ底になっている。

第30図1～9は銅製のの帯金具である。1が鋲具で、2～4が巡方、5～7が丸鞆、9が鉈尾、8は巡方の可能性が高いが、小片のため不明である。巡方と丸鞆は全て下半が欠損しているため大きさは不明である。2と3、7は閉じ合わせのための突起が残っており、巡方と丸鞆はそれぞれ2対あったものと考えられる。1と9は表面の漆が塗られていた。本来は全面に漆が塗布されていたと考えられる。

第31図1～10は石製品の勾玉である。1～4と6～7は瑪瑙製で、5と8～9は碧玉製、10は水晶製である。すべて穿孔は一方向からである。11は水晶製の切子玉である。これも一方向からの穿孔である。12はガラス製の丸玉である。13と14は土製の小玉である。13は2個体が接着していると考えられる。

第３章　まとめ

まず大座西遺跡の主な遺構である１号墳と２号墳の築造時期を検討する。

１号墳は円墳で埋葬施設は割石を用いた両袖式の横穴式石室であった。石室からは須恵器などの時期が特定できるものが少なかったが、周溝から須恵器が数点出土している。数少ない須恵器の中で第８図１は７世紀後半と考えられる。その他の遺物の時期を判断する事は難しく、出土遺物から１号墳の築造時期を検討することは困難である。石室からは金属製品として鉄鏃以外に大刀片３点と足金具１点が出土しているが、この足金具がどの大刀に付属するものか不明である。

２号墳は後世の削平のため墳形は不明である。埋葬施設は１号墳と同じく割石を用いた横穴式石室である。石室も大きく破壊されており、規模はほとんど不明である。石室は最下段しか残存していなかったが、多量の遺物が出土している。出土した遺物には須恵器や土師器以外に多様な金属製品が出土しており、個々の遺物について時期の検討が可能かもしれないが、ここでは一般的な遺物である須恵器の蓋坏と土師器の坏から２号墳の時期を考えてみたい。

石室から出土した須恵器は大きく３つの時期に分けられる。１期としては、第17図１～13が口径も大きく、天井部及び底部がヘラ削りである一群があげられ、およそ６世紀後半と考えられる。このうち７と13はわずかに口径が小さく、若干新しい可能性も考えられる。２期は第18図１～２で、口径が小さいものである。およそ６世紀終わり頃と考えられる。３期は第18図９～12と第19図１と２のおよそ８世紀前半の一群である。このように３つの時期の遺物が存在するが、築造時期は１期と考えられる。したがって２期と３期は追葬行為、あるいは何らかの目的で石室を再利用したと考えられる。１期と２期はさほど時期が離れていない点、１期の遺物が寄せ集められているようにまとまって出土した点、２期の遺物は３期の遺物に比べ奥壁側で棺台の近くから出土している点から、２期に追葬が行われ１期の遺物を隅に寄せたと考えられる。３期は８世紀に入っており、遺物も玄門側から出土していることから追葬では無い可能性も考えられる。

２号墳からは多様な遺物が出土しているが、特筆すべきは数多くの金属製品が出土した事である。前述の通り１期の遺物はほとんどが北東隅や奥壁近くからまとまって出土しており、この中からほとんどの鉄製品が出土している。したがって鉄製品はほとんどが1期に所属すると考えられる。その他に特殊な遺物として銅碗と帯金具、暗文入り土師器坏があげられる。

銅碗は石室を削平している溝から出土しているが、その他に２号墳に関係しているであろう遺物も出土しており、２号墳に納められていたものと考えている。ほぼ完形で出土し、保存状態も良好である。古墳時代から古代の銅碗は、隠岐郡内での出土は多沢横穴墓（知夫村）で出土した蓋に次いで２例目で、島根県内では他に身が出土した上塩冶横穴墓群第23支群５号穴（出雲市）と明神古墳（大田市）でしか確認されておらず貴重な資料といえよう。

帯金具は、島根県内で各素材のものを合わせて10遺跡で確認されている。このうち波来浜遺跡（江津市）で複数の石製丸鞆と巡方が出土しているのみで、その他の遺跡はいずれか単独の出土が多く、２号墳では鋏具と丸鞆、巡方、鉈尾がセットで出土し、丸鞆と巡方は２対ずつ出土していることからも、帯金具のセット関係を考える上で非常に興味深い資料である。

暗文入り土師器坏は島根県内で多数出土しているが、隠岐郡内で出土する例も多い。県内には畿内産土師器を模倣して在地で製作した資料も多いが、これらは形状や文様、胎土から畿内産である可能性が考えられている。畿内産の場合、前述の銅碗や帯金具と合わせ直接持ち込まれた可能性が考えられる。隠岐郡内にはそういった畿内に関係した遺物が多数出土しており、出雲を介さず直接畿内との

関係を持っていたことが想像される。

次に周辺の古墳群との関係を見てみたい。大座西遺跡と同じく西郷湾を望む八尾川流域（下西地区）の古墳としては、玉若酢命神社古墳群と大座古墳群があげられる。玉若酢命神社古墳群は２基の前方後円墳と10数基の円墳からなる。墳形不明の３号墳は横穴式石室で６世紀に築造されたと考えられている。大座古墳群は３基の円墳からなり、５世紀から６世紀にかけての古墳群と考えられている。大座西遺跡２号墳と隣接した磯中学校脇古墳と、２つの古墳と同一の尾根上に築造されている西田古墳は合わせて一つの古墳群として考えた方が良いと思われる。

下西地区の丘陵には数基の古墳により形成される古墳群が多く、今回確認された２号墳も同様であると考えられ周辺の丘陵でさらに古墳が発見される可能性が高いと考えられる。１号墳については大座古墳群とも大座西遺跡２号墳の尾根ともはずれており単独の古墳の可能性がある。

最後に２つの古墳の石室について考えてみたい。石室の規模は１号墳が奥壁床面の幅が1.8ｍ玄室奥行きは3.1ｍである。２号墳は奥壁床面の幅が2.8ｍ、東壁が3.6ｍであった。隠岐郡内の横穴式石室は平面が長方形であることが多く、１号墳と２号墳も同様であると考えられる。

特に２号墳の石室の幅は広いと考えられ、古墳の時期や型式が違うため単純に比較はできないが、県内では大念寺古墳（出雲市）の2.9ｍ、上塩冶築山古墳（出雲市）の2.8ｍに匹敵する規模である。隠岐郡内では平西古墳の玄室幅が2.5ｍあり、水若酢１号墳は羨道入口から奥壁までが全長11ｍ、奥壁幅が推定2.2ｍ程である。隠岐郡最大の古墳である平神社古墳は全長47ｍの前方後円墳であるが横穴式石室は壊れており、全長８ｍで幅２ｍほど残っている。以上から少なくとも隠岐郡内では石室の全長は不明ながらも、２号墳は奥壁幅は最大の古墳であり、卓越した出土遺物からも八尾川流域の有力者が埋葬されていた可能性が考えられる。

以上、今回の調査で得られた調査成果を基に気づいた点について検討してきた。

大座西遺跡では横穴式石室を伴う２基の古墳が発見され、多種多様な遺物が出土した。この発掘調査は２基の古墳が隠岐のみならず島根県内でも有数の古墳としてとらえられるに十分な成果をあげたと言える。

最後に末筆ながら発掘調査及び報告書作成に関してご協力いただいた地元の方々及び関係機関の方々に厚く御礼申し上げます。

参考文献

末永雅雄1981『増補日本上代の武器』
勝部　昭1985「隠岐島の古墳」『山本清先生喜寿記念論集　山陰考古学の諸問題』
前島己基1985『日本の古代遺跡 20 島根』
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館1996『'96特別展　黄金に魅せられた倭人たち』
内田律雄1996「原始・古代の遺跡」『新修知夫村誌』
島根県古代文化センター1999『上塩冶築山古墳の研究』
松江北高校考古学部・大谷晃二2004「玉若酢命神社古墳群測量調査報告」『島根考古学会誌』第20・21集 合併号
東方仁史2005「米子市宗像１号墳出土遺物について」『鳥取県立博物館研究報告』42

出土遺物観察表

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	口径	器高	胴最大径	脚径	形態上の特徴	調　整	色調	焼成	胎土
8図1	13	1	周溝	須恵器	長頸壺	7.4	22.8	16	8.6	自然釉付着 2条の沈線	外面:ケズリのち回転ナデ	青灰色	良好	2～3㎜程度の白色砂粒を多く含む
8図2	13	1	周溝	須恵器	長頸壺	10.1		(10.1)		1条の沈線あり	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ, ナデ, しぼり	濃青灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を少し含む
8図3	14	1	周溝	須恵器	はそう			(10.5)		すかし有り。	外面:回転ナデ, 回転ヘラケ	青灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を多く含む
8図4	14	1		須恵器	短頸壺		14	16.8	5	2条の沈線あり 刺突文あり	外面:回転ナデ, 回転ヘラケ	青灰色	良好	3㎜以下の白色砂粒を少し含む

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	全長	環部幅	軸部	重さ(g)					備考
8図5	14	1	1号墳石室	銅製品	足金具	4.5	2.3	3.2	8.56					樹皮残る

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	刀身部			茎部							備考
						長さ	幅	厚さ	長さ	口幅	尻幅	厚さ	目釘孔			
8図6	14	1	1号墳石室	鉄製品	大刀	(8.0)	(2.4)	0.7								
8図7	14	1	同上	鉄製品	大刀	(8.4)	(2.8)	1								
8図8	14	1	同上	鉄製品	大刀	(8. 4)	(2.0)	0.8								

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	全長	身部＋頸部	身部	頸部	茎部					備考
8図9	14	1	1号墳石室	鉄製品	鉄鏃	(7.2)			(6.4)	(0.8)					木質残る
8図10	14	1	同上	鉄製品	鉄鏃				(6.4)						木質残る

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	口径	器高	胴最大径	脚径	形態上の特徴	調　整	色調	焼成	胎土
17図1	26	2	同上	須恵器	坏蓋	17.9	4.3	18			外面:回転ナデ, ヘラケズリ 内面:ナデ、回転ナデ	黄灰色	良好	1㎜以下の黒色砂粒を多く含む
17図2	26	2	同上	須恵器	坏蓋	15.7	4.5	16			外面:回転ナデ、ヘラ切り 内面:回転ナデ	黄灰色	良好	5㎜以下の白色砂粒を少し含む
17図3	26	2	石室・南溝	須恵器	坏蓋	16.4	4	16.6		外側に自然釉が流れる。天井頂部に釉塊	外面:回転ナデ, ヘラケズリ 内面:ナデ	黄灰色	良好	3㎜以下の白色砂粒を多く含む
17図4	27	2	同上	須恵器	坏蓋	19	4.1	18.5			外面:回転ナデ, ヘラケズリ	灰色	良好	1㎜以下の白色黒色砂粒を多く含む
17図5	27	2	2号墳石室	須恵器	坏蓋	16.2	4.3	16.4			外面:回転ナデ, ヘラケズリ	黄灰色	良好	2～3㎜の白色黒色砂粒を多く含む
17図6	27	2	同上	須恵器	坏蓋	16	4	16			外面:回転ナデ, ヘラケズリ 内面:ナデ、回転ナデ	黄灰色	良好	1～2㎜の黒色粒子を多く含む
17図7	28	2	同上	須恵器	坏蓋	14	3.6	14.2			外面:回転ナデ, ヘラケズリ 内面:ナデ	黄灰色	良好	2～3㎜の白色砂粒を多く含む
17図8	28	2	同上	須恵器	坏身	16.6	5.2	19.2			外面:回転ナデ, ヘラケズリ 内面:回転ナデ	外側:黄灰色内側:灰色	良好	1㎜程度の黒色砂粒を多く含む
17図9	28	2	同上	須恵器	坏蓋	16.2	4.5	17.2		外側に緑釉が少量付着	外面:回転ナデ, ヘラケズリ 内面:ナデ	黄灰色	良好	1㎜以下の白色黒色砂粒を多く含む
17図10	29	2	同上	須恵器	坏身	14.9	4.4	16.9			外面:回転ナデ, ヘラケズリ 内面:回転ナ	外側:黄灰色内側:青灰	良好	2～3㎜の白色砂粒を少し含む
17図11	29	2	同上	須恵器	坏身	15.4	4.4	16.6			外面:ヘラケズリ, 回転ナデ 内面:回転ナ	黄白色	良好	1㎜以下の黒色粒子白色砂粒を少し含む
17図12	29	2	同上	須恵器	坏身	14.2	3.7	16.7			外面:回転ナデ, 回転ヘラケズリ後回転ナデ	外側:黄灰色内側:灰色	良好	3㎜以下の白色砂粒を多く含む
17図13	30	2	同上	須恵器	坏身	12.7	3.5	15.4			外面:回転ナデ, ヘラケズリ 内面:ナデ	青灰色	良好	5㎜以下の白色砂粒を少し含む
17図14	30	2	同上	須恵器	高坏	15.6	20.3	17.3	15.8	三元すかし。沈線2本あり。	外面:回転ナデ 内面:ナデ	灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を少し含む
17図15	30	2	同上	須恵器	壺蓋	7.8	3.1	11.5			外面:回転ナデ, ケズリ, ケズリのちつまみをつけナデ	濃青灰色	良好	5㎜程度の白色砂粒を含む
17図16	30	2	同上	須恵器	脚付壺	10	26.9	15.8	23.8	2条の沈線 斜線文	外面:回転ナデ, ヘラケズリ後回転ナデ 内面:回転ナデ, ナデ	青灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を多く含む
17図17	31	2	同上	須恵器	脚付壺	9.7	27.7	13.6		脚部に二本の沈線	外面:回転ナデ・胴部に斜め方向のヘラケズリ	青灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を少し含む
17図18	31	2	同上	須恵器	広口壺	18.2	25.7	18.8			外面:回転ナデ、コウ泪タタキ 内面:タタキ	灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を多く含む
17図19	31･32	2	同上	須恵器	提瓶	7.5	19.8	16.9			外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	青灰色	良好	3㎜以下の白色砂粒を多く含む
17図20	32	2	同上	須恵器	はそう	13.9	17.9	14		全面に自然釉付着	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	濃灰色	良好	1～3㎜の白色砂粒を多く含む
18図1	32	2	同上	須恵器	坏身	11.9	4.2	13.4		底部内面少し赤い	外面:回転ナデ、ヘラ切りのちナデ 内面:回転ナデ、ナデ	青灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を少し含む
18図2	33	2	同上	須恵器	坏身	10.7	4.2	13.5			外面:回転ナデ、ヘラ切り？のちナデ 内面:回転ナデ		良好	

18図3	33	2	同上	須恵器	短頸壺	4.8	5.3	10.1		外面に自然釉付着重ね焼き痕あり	外面：回転ナデ，ヘラケズリ 内面：回転ナデのちナデ	灰色	良好	2～3㎜の白色砂粒を多く含む
18図4	33	2	同上	須恵器	提瓶	7.5	17.3	13.6				濃青灰色	良好	2～3㎜の白色砂粒を多く含む
18図5	34	2	同上	須恵器	提瓶	5.6	17.5	13.2		全面に自然釉付着 片側は平坦で一方はふくらみをもつ	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	青灰色	良好	1㎜程度の白色砂粒を少し含む
18図6	34	2	同上	須恵器	はそう		(13.7)	9.3			外面：回転ナデ，ヘラケズリ	灰色	良好	1～2㎜の白色砂粒を多く含む
18図7		2	同上	須恵器	横瓶	(12.8)	28.5	42		自然釉付着。径9cmほどの円形重ね焼痕残る。灰かぶりなし。	外面：円盤充てん後平行タタキ，平行タタキ後カキメ，回転ナデ	灰色（焼成不良部灰白色）	良好 片側部不良	密（1～2㎜以下の砂粒を含む）
18図8	35	2	2号墳石室	須恵器	横瓶	(12.6)	27.6	36.5		自然釉付着。径8cmほどの円形重ね焼痕残る。	外面：平行タタキ，タタキ後カキメ，回転ナデ 内面：回転ナデ	灰褐色	良好	密（3㎜以下の砂粒を含む）
18図9	36	2	同上	須恵器	坏蓋	14.8	3	15.2	4.8		外面：回転ナデ，ヘラケズリ 内面：ナデ、回	黄灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を多く含む
18図10	36	2	同上	須恵器	坏蓋	15.6	3.6	15.5			外面：回転ナデ，ヘラケズリのち回転ナデ	灰色	良好	1㎜以下の白色砂粒を少し含む
18図11	36	2	同上	須恵器	坏身	13	4.6	13.2	7.6		外面：回転ナデ、ヘラ切り？のちナデ 内面：回転ナデ,ナデ	灰色	良好	
18図12	37	2	同上	須恵器	坏身	13.9	5.5	7.9			外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ			
18図13		2	SK-03	須恵器	高坏	15.7	5	15.7			外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	灰色	良好	密
18図14	37	2	同上	須恵器	長頸壺	9	(19.5)	15		沈線1条浅い。沈線上の段あり。	外面：回転ナデ，回転ナデのちナデ 内面：回転ナデ	灰白色	良好	2～3㎜の白色砂粒を多く含む
19図1	37･38	2	同上	土師器		17.9	5	18.3		内面に放射状暗文あり。内面底部に螺旋状暗文あり。	外面：磨き，ケズリ 内面：ナデ			
19図2	38	2	同上	土師器	坏（赤彩）	18.2	4.8	18.1		内面には暗文が残る。炭化物付着。内面	外面：横ナデか？	橙～赤褐色	良好	1㎜以下の白色砂粒を少し含む
19図3	38	2	同上	土師器	坏	12.5	3.2	12.8				赤褐色	良好	1㎜以下の白色砂粒を少し含む
19図4	39	2	同上	土師器	坏	14.3	6.3	15		内面に黒紋あり。	外面：一部ケズリか？	明赤褐色	良好	密（0．5㎜以下の砂粒を少し含む）
19図5	39	2	同上	土師器	低脚坏	12	9.1	12.6	9.8		外面：回転ナデ，指でおさえ	赤褐色	良好	1㎜以下の白色砂粒を少し含む
19図6	40	2	同上	土師器	壺	10.4	10	12.5	8.2	外面に黒色付着物あり。外・内面に黒斑あり。	外面：横方向のナデ	明赤褐色	良好	密（0．5㎜以下の砂粒を少し含む）

挿図番号	図版番号	区	出土 地点	種別	器種	全長	幅	厚さ			透		材質	備考
20図1	42	2	2号墳石室	鉄製品	鍔	8.4	7	1.1			長方形8穴		鉄＋銀	側面に銀象嵌あり
20図2	42	2	同上	鉄製品	鍔	(4.9)	(2.4)	0.8			長方形2穴以上		鉄	
20図3	42	2	同上	鉄製品	鍔	(4.7)	(2.2)	0.6			長方形1穴以上		鉄	

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	長さ	幅								備考
20図4	42	2	2号墳石室	鉄製品	はばき		(2.3)								
20図5	42	2	同上	鉄製品	はばき	(2.6)	(2.7)								
20図6	42	2	同上	鉄製品	はばき	(3.0)	(2.3)								
20図7		2	同上	鉄製品	はばき	(2.6)	(2.1)								木質残る

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	縦	横								備考
20図8	42	2	2号墳石室	鉄製品	不明鉄器	2.2	3.8								木質残る

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	刀身部			茎部						備考
						長さ	幅	厚さ	長さ	口幅	尻幅	厚さ	厚さ	目釘孔	
21図1	43	2	同上	鉄製品	大刀	79.3	3.4	0.9	(6.0)	1.8			0.6		
21図2	43	2	同上	鉄製品	大刀	(54.9)	4								
21図3	43	2	同上	鉄製品	大刀	(63.2)	3.9	1.5							
21図4	43	2	2号墳石室	鉄製品	大刀	(74.0)	3.7	1.1							
21図5	43	2	同上	鉄製品	大刀				(17.8)	(2.6)			1.8		

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	全長	身部			袋部			形状			備考
							長さ	厚さ	幅	長さ	幅	深さ	刀身形式	関	袋部の断面	
22図1	45	2	2号墳石室	鉄製品	鉄矛	25.5	16	1.7	1.7	9.5	3.2	10.3	不整六角形	無	円形	袋部に木質有り 袋部に目釘有り

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	全長	厚さ	幅							備考
23図1	44	2	2号墳石室	鉄製品	両頭金具	3.2	0.6	1.2							木質残る

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	全長	身部長＋頸部長	身部長	頸部長	茎部長	鏃関部	形態	頸部関部	備考
24図1	44	2	2号墳石室	鉄製品	鉄鏃	12.6	8.5	5.5	3.3	4.1	逆刺	柳葉鏃	角関	
24図2	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	10.7	7.5	4.6	2.9	3.2	逆刺	柳葉鏃	斜関	
24図3		2	同上	鉄製品	鉄鏃	9.2	8.1	4.4	3.7	1.1	逆刺	柳葉鏃	台形関	木質有り
24図4	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(6.4)	(6.4)	5.2	(1.2)		逆刺	柳葉鏃		
24図5	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃		(7.5)	5.2	(2.3)		逆刺	柳葉鏃		
24図6	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(8.9)	7.3	4.4	2.9	(1.6)	逆刺	柳葉鏃	台形関	木質有り
24図7	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(7.3)	(7.3)	4.8	(2.5)		逆刺	三角形鏃	台形関	2個体有り

24図8	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(5.6)	(5.6)	5.1	(0.5)		逆刺	三角形鏃		木質有り
24図9	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(5.8)	(4.4)	(1.6)	2.8	1.4	逆刺	柳葉鏃	台形関	
24図10	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(7.1)	(5.0)	(2.3)	2.7	2.1		柳葉鏃	台形関	木質有り
24図11	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(3.7)		(3.7)				三角形鏃		
24図12		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(4.8)			(2.6)	2.2	逆刺	柳葉鏃	台形関	木質有り
24図13		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(5.0)	(4.0)	(2.5)	1.5	1.0		三角形鏃	台形関	木質有り
24図14	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(6.5)	6.5	6.0	(0.5)			柳葉鏃	角関	
24図15	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(5.1)	(5.1)	(2.9)	(2.2)			三角形鏃	角関	
24図16	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(6.3)	(6.3)	(4.0)	(2.3)			三角形鏃	角関	
24図17		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(4.1)	(4.1)	3.1	(1.0)			長頸鏃	角関	
24図18		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(3.1)	(3.1)	(1.6)	(1.5)			長頸鏃	角関	
24図19		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(8.7)	(8.7)	(0.7)	(8.0)			長頸鏃	角関	
24図20		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(11.9)			(10.3)	(1.6)		長頸鏃	棘状関	木質有り
24図21		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(6.6)			(5.0)	(1.6)		長頸鏃	棘状関	木質有り
24図22	45	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(2.4)	(2.4)	(1.7)	(0.7)			長頸鏃	斜関	
24図22		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(4.7)			(3.6)	(1.1)		長頸鏃	棘状関	
24図23		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(6.8)			(5.1)	(1.7)		長頸鏃	棘状関	木質有り
24図24		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(10.9)			(8.3)	(2.6)		長頸鏃	台形関	木質有り
24図25	45	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(9.0)	(9.0)	(5.2)	3.8			長頸鏃	無関	木質有り
24図26		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(7.1)			(7.1)			長頸鏃		
24図27		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(5.7)			(5.7)			長頸鏃		
24図28		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(5.5)			(5.5)			長頸鏃		
24図29		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(4.8)			(4.8)			長頸鏃		
24図30		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(5.1)				(5.1)		長頸鏃		
24図31		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(4.0)			(4.0)			長頸鏃		長頸鏃
24図32	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(5.0)				(5.0)				木質有り
24図33	44	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(2.2)				(2.2)				木質有り
24図34	45	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(3.1)				(3.1)				
24図35	45	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(2.5)				(2.5)				
24図36	45	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(2.4)				(2.4)				木質有り
24図37	45	2	同上	鉄製品	鉄鏃	(2.7)				(2.7)				木質有り
24図38		2	同上	鉄製品	鉄鏃	(3.4)				(3.3)				

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	全長	刀身部			茎部						備考
							長さ	幅	厚さ	長さ	口幅	尻幅	厚さ	目釘孔		
25図1	46	2	2号墳石室	鉄製品	刀子		8.2	2	0.7	(4.0)			0.9			木質残る はばき有り
25図2	46	2	同上	鉄製品	刀子		(5.8)	1.7	0.4	5.7	0.9	0.4	1.3		両関	鹿角製の柄
25図3	46	2	同上	鉄製品	刀子		(2.0)	1.3	0.5	7.4	1	0.5	0.3		両関	木質残る
25図4	46	2	同上	鉄製品	刀子		(8.4)		0.6							
25図5	46	2	同上	鉄製品	刀子		5.7		0.5	(1.0)			0.5		片関	木質残る
25図6	46	2	同上	鉄製品	刀子					4.2			0.6			木質残る

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	全長	刃部			茎部			形状		備考
							長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ			
26図1	45	2	2号墳石室	鉄製品	鉄斧	18.7		8							
26図2	46	2	同上	鉄製品	鉄斧	(10.0)		4.5							
26図3	46	2	南側溝	鉄製品	鉄斧	15.1		7.6			5		有肩		身部と刃部は別造り偏刃
26図4	46	2	2号墳石室	鉄製品	鉄斧	13.3		4.5				3	有肩		身部と刃部は別造り

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	全長	刃部厚さ	刃部幅							
27図1	46	2	2号墳石室	鉄製品	やりがんな	11.5	0.6	1							

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	計測位置									備　考
						a	b	c	d	e	f	g			
28図1	46	2	2号墳石室	銅製品	耳環	4	4.3	2.5	0.8	0.8	0.6				鉛製か
28図2	46	2	同上	銅製品	耳環	2.6	2.9	1.5	0.7	0.6	0.7				銀板を貼る　28図3と対か
28図3	46	2	同上	銅製品	耳環	2.7	3	1.7	0.7	0.6	0.6				銀板を貼る　28図2と対か
28図4	46	2	同上	銅製品	耳環	2.5	2.7	2.1	0.4	0.4	0.3				28図5と対か
28図5		2	同上	銅製品	耳環	–	–	–	0.3	0.4					28図4と対か

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	口径	器高	胴最大径	脚径	形態上の特徴	色調
29図1	1	2	南溝	青銅器	銅鋺	10.9	3.8			胴部内面に5条の沈線底部内外面とも8条の沈線	緑色

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	名称	長さ	最大幅	透孔(縦)	透孔(横)	重さ(g)				備考
30図1	47	2	2号墳石室	銅製品	帯金具	鉄具	3.8	2.9			9.8				漆付着
30図2	47	2	同上	銅製品	帯金具	巡方		2.3			1.6				表金具　漆付着
30図3	47	2	同上	銅製品	帯金具	巡方		2.3			1.7				表金具　漆付着
30図4	47	2	同上	銅製品	帯金具	巡方		2.3			0.8				裏金具　漆付着
30図5	47	2	同上	銅製品	帯金具	丸鞆		2.3	0.8	1.6	0.6				裏金具
30図6	47	2	同上	銅製品	帯金具	丸鞆			0.5	1.4	0.5				表金具
30図7	47	2	同上	銅製品	帯金具	丸鞆					0.2				表金具　漆付着
30図8	47	2	同上	銅製品	帯金具	巡方か					0.5				裏金具か？漆付着
30図9	47	2	同上	銅製品	帯金具	蛇尾									漆付着

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	最大高	最大厚	孔径		胴部幅	頭部厚		材質	色調	備考
31図1	47	2	2号墳石室	石製品	勾玉	40	10	2	1	14	7		瑪瑙	半透明　赤色	片面穿孔
31図2	47	2	同上	石製品	勾玉	35	10	3	1	13	10		瑪瑙	半透明　赤色	片面穿孔
31図3	47	2	同上	石製品	勾玉	43	12	4	1	13	11		瑪瑙	半透明　赤色	片面穿孔
31図4	47	2	同上	石製品	勾玉	36	10	2	1	13	6		瑪瑙	半透明　赤色	片面穿孔
31図5	47	2	同上	石製品	勾玉	33	11	4	2	11	10		碧玉	緑色	片面穿孔
31図6	47	2	同上	石製品	勾玉	36	10	3	1	13	8		瑪瑙	半透明　赤色	片面穿孔
31図7	47	2	同上	石製品	勾玉	32	10	2	1	10	9.5		瑪瑙	半透明　赤色	片面穿孔
31図8	47	2	同上	石製品	勾玉	32	9	3	1	12	9		碧玉	緑色	片面穿孔
31図9	47	2	同上	石製品	勾玉	28	7	3	2.5	8	7		碧玉	緑色	片面穿孔
31図10	47	2	同上	石製品	勾玉	25	9	3	2	13	9		水晶	無色　透明	片面穿孔

挿図番号	図版番号	区	出土地点	種別	器種	最大高	最大厚	孔径		面径			材質	色調	備考
31図11	47	2	2号墳石室	石製品	切子玉	17	22		1	9	10		水晶	無色　透明	片面穿孔
31図12		2	同上	ガラス製品	丸玉	10	8.5	2	1.5	5.5	5		ガラス	濃青色	片面穿孔
31図13		2	同上	土製品	小玉	8	8	2	1.5	5	4		土	濃褐色	片面穿孔
31図14		2	同上	土製品	小玉	7	5.5	1	1	4	3		土	濃褐色	片面穿孔

2号墳出土銅鋺

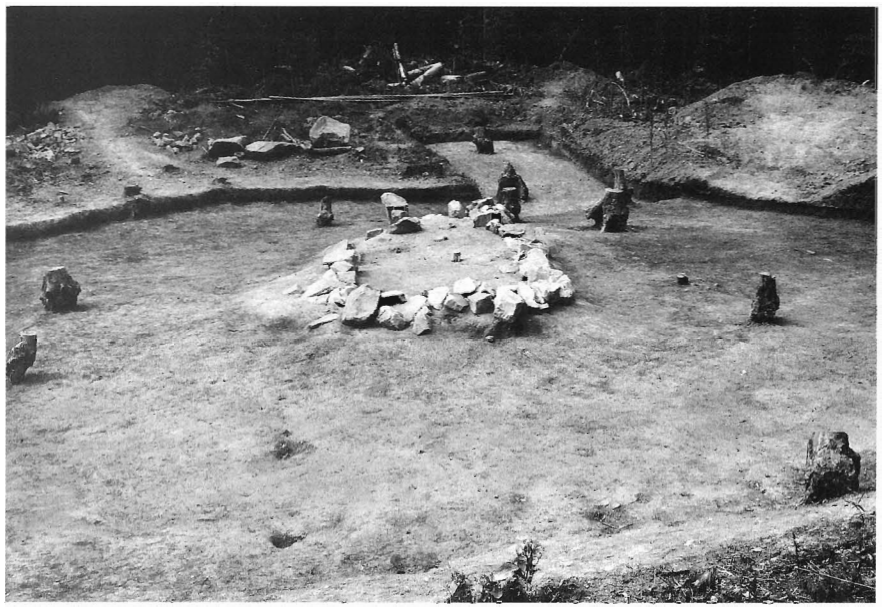
同上

1区　1号墳検出状況
（東から）

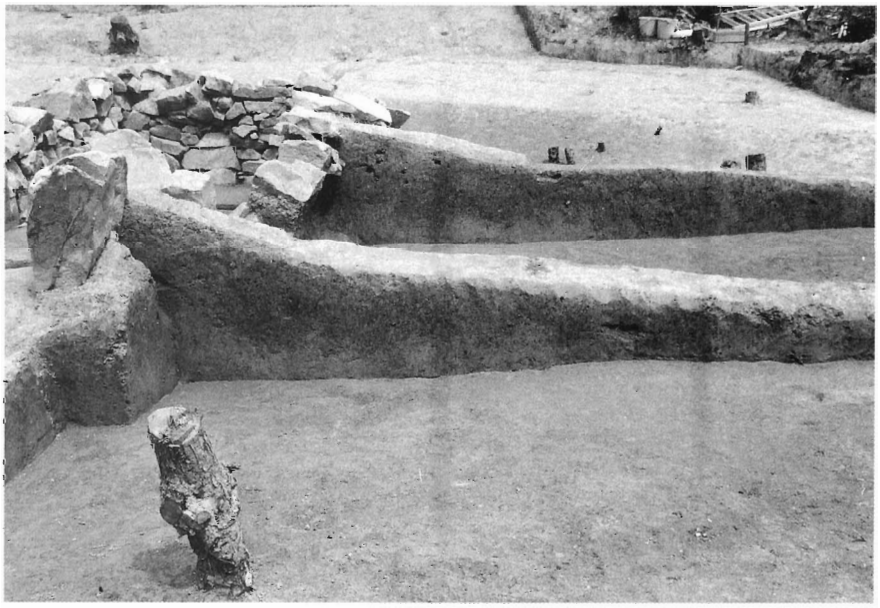
同上（南から）

1号墳石室天井石除去後
（南から）

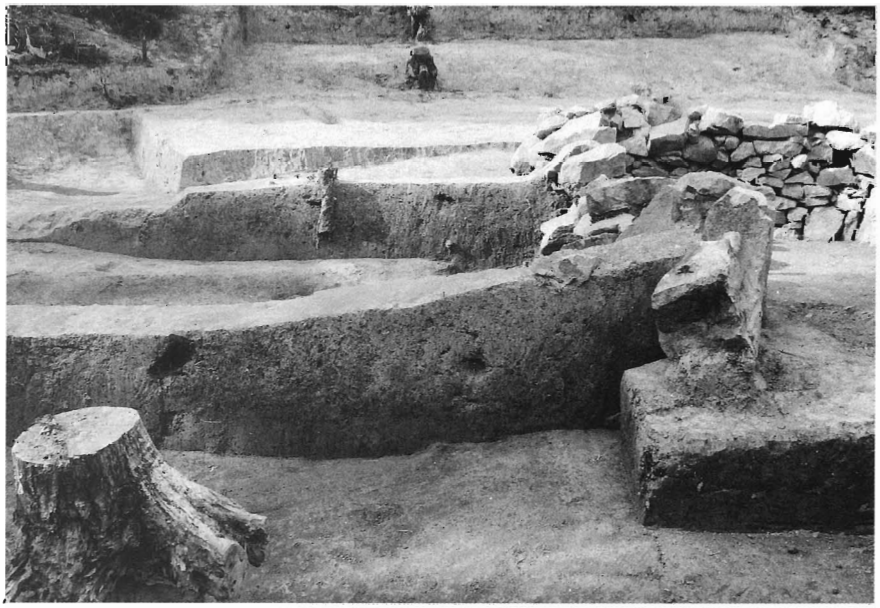
1号墳石室天井石除去後
（北から）



1号墳墳丘東側土層
（南から）



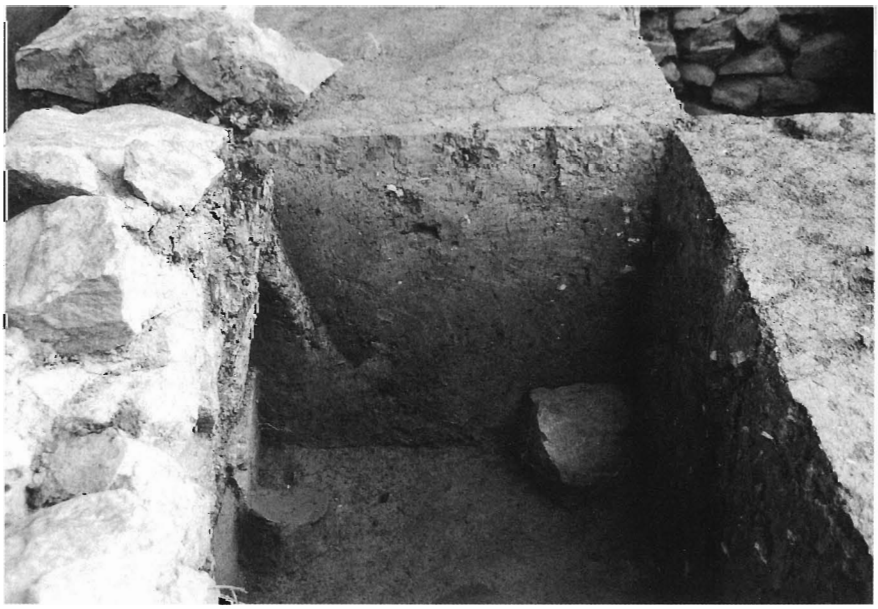
同上　西側土層
（南から）



1号墳石室羨道土層
（東から）

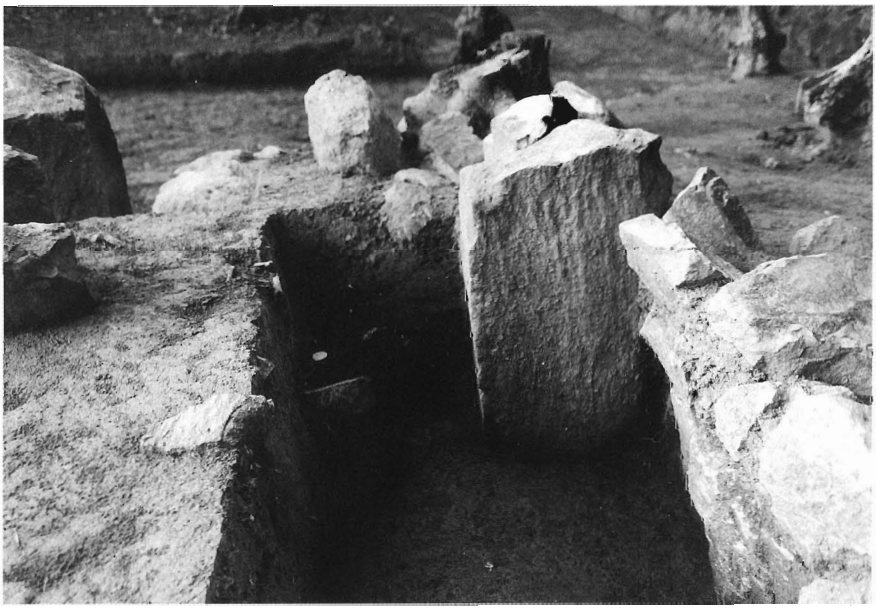
1号墳石室南北土層
（東から）

1号墳石室東西土層
（南から）



1号墳石室南北土層
（西から）

1号墳石室羨道部土層
（北から）



1号墳石室内完掘状況
（南から）

1号墳石室内完掘状況
（北から）

同上　（正面から）

1号墳石室奥壁
（南から）

1号墳石室内完掘状況
（西から）

1号墳石室東壁
（西から）

1号墳石室西壁
（東から）

1号墳石室東壁奥
（南西から）

同上　西壁奥
（南東から）

1号墳石室玄門
（北から）

1号墳石室羨道
（東から）

同上　（西から）

1号墳石室東奥石組状況
（北東から）

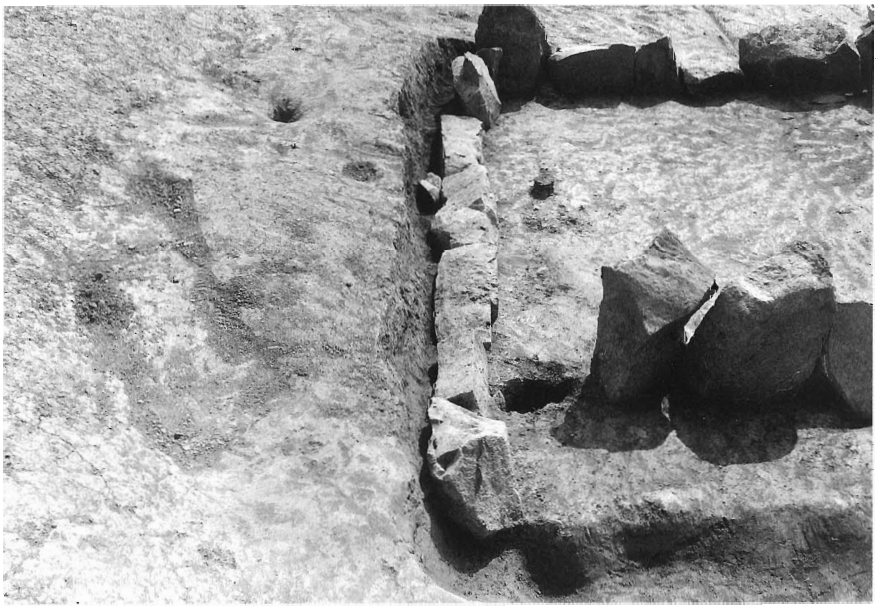
1号墳石室西奥石組状況
（北西から）

同上　東奥石組状況
（南西から）

同上　西奥石組状況
（南東から）

1号墳から西郷湾を望む

1号墳石室奥壁再下段状況
（西から）

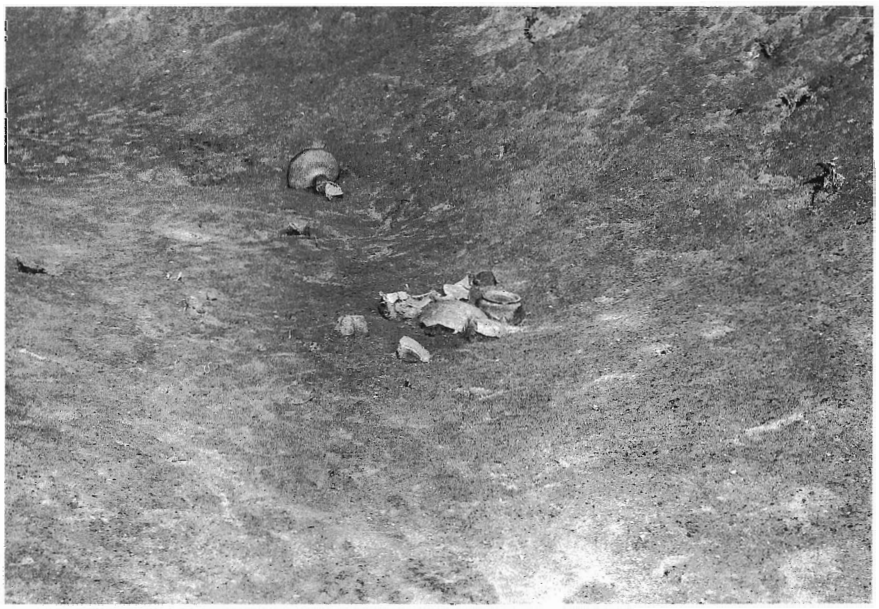


1号墳　整地状況
（南から）

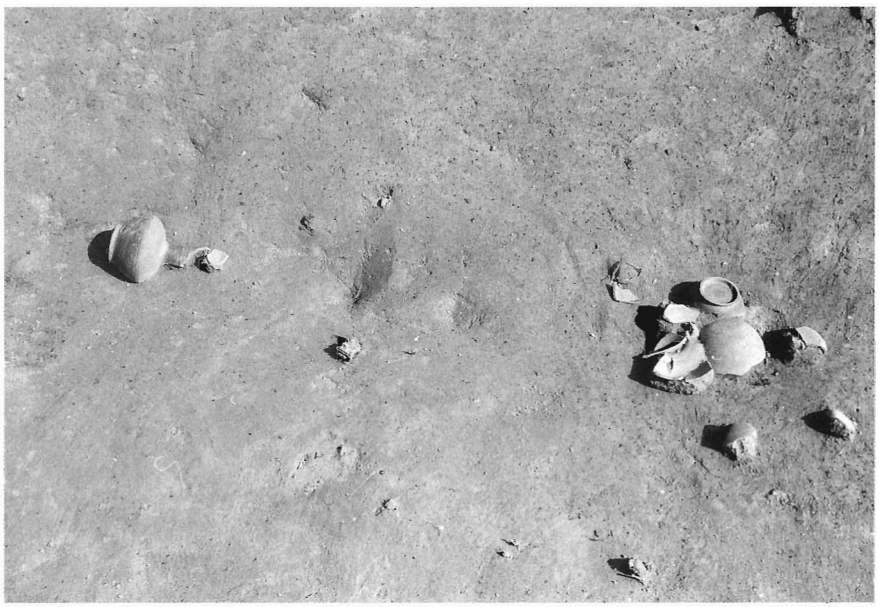
1号墳周溝完掘状況
（東から）

同上　（西から）

1号墳周溝内遺物出土状況
（東から）



1号墳周溝内遺物出土状況
（南から）



1号墳　出土須恵器

8-1

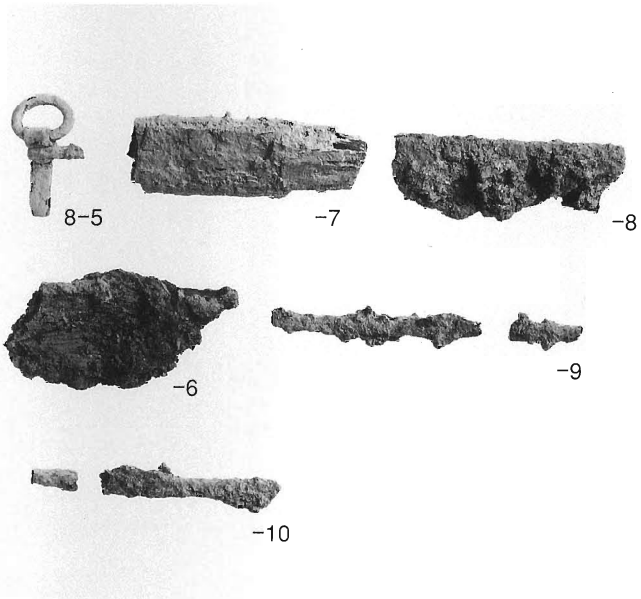
同上

8-2

1号墳　出土須恵器

同上

1号墳
出土銅製品・鉄製品



2区　調査前

2区　調査前

2区　立地状況

2区から見た西郷湾

2号墳検出状況
（南から）

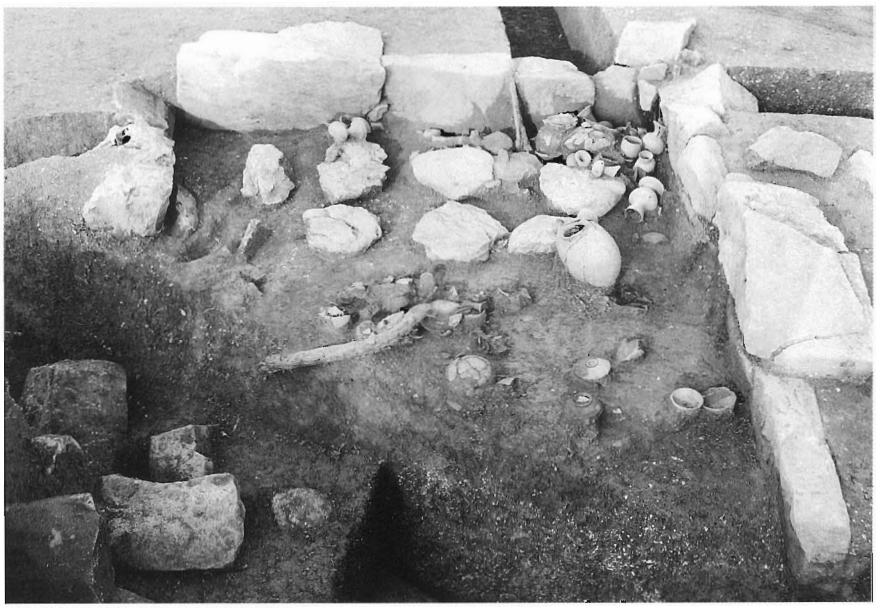
2号墳墳丘土層

2号墳墳丘土層

2号墳調査風景

2号墳調査風景

2号墳石室遺物出土状況
（南から）

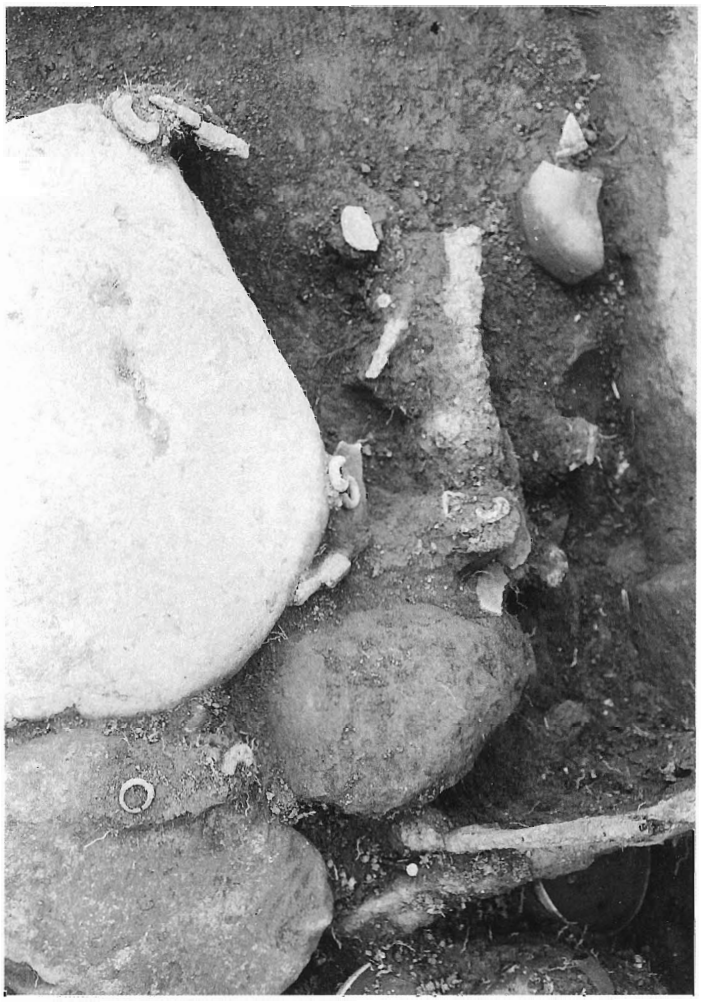


同上

同上　（北東から）

2号墳石室遺物出土状況
（西から）

同上（アップ）



2号墳石室右壁奥遺物出土状況（南西から）

2号墳石室遺物出土状況（西から）

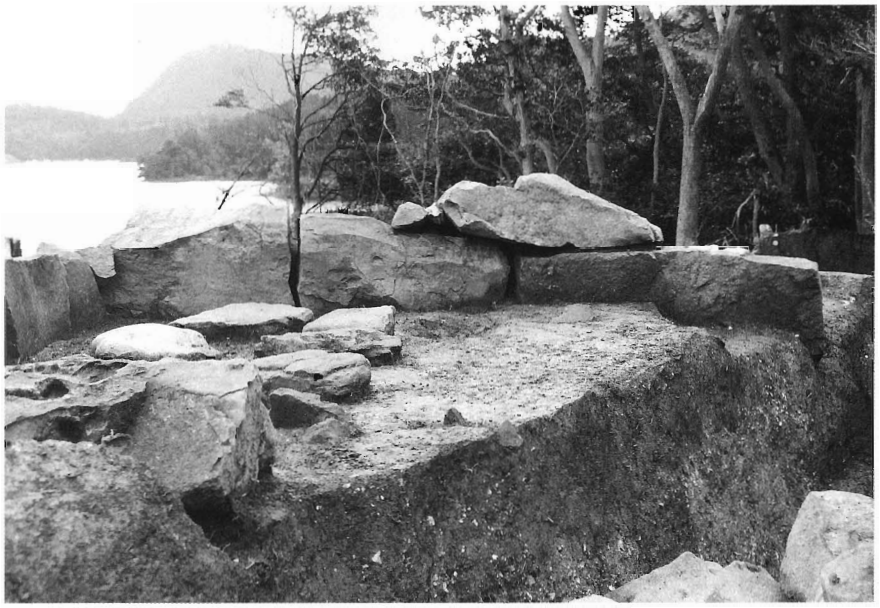
2号墳石室南側遺物出土状況（アップ）

2号墳石室遺物除去後
（南から）

2号墳石室出土棺台検出状況
（東から）

2号墳石室奥壁
（南から）

2号墳石室東壁
（西から）

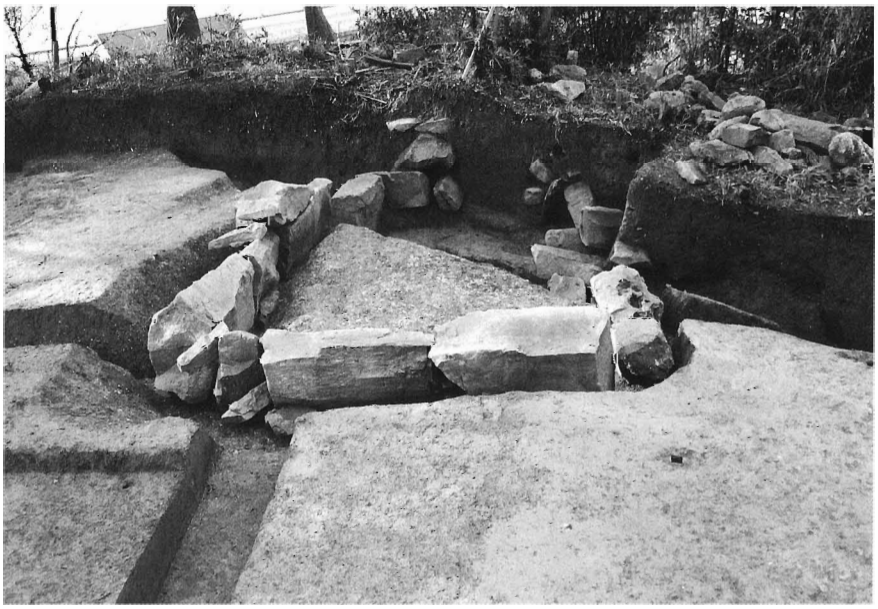


2号墳石室西壁
（東から）

2号墳石室西壁奥石組状況
（北西から）

2号墳石室完掘状況
（南から）

同上　（北から）



2区　南西側溝完掘
（南から）

2区　SK01完掘状況
（南西から）

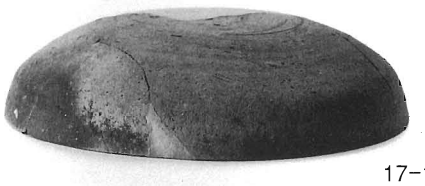
2区　SK02完掘状況
（南西から）

2区
SK03・SK04完掘状況
（北から）

現地説明会風景

2号墳石室出土須恵器

2号墳石室出土須恵器



17-1

同上

17-2

同上

17-3

2号墳石室出土須恵器

17-4

同上

17-5

同上

17-6

2号墳石室出土須恵器

17-7

同上

17-8

同上

17-9

2号墳石室出土須恵器

17-10

同上

17-11

同上

17-12

2号墳石室出土須恵器

17-13

同上

17-14

同上

17-15

17-16

2号墳石室出土須恵器

17-17

同上

17-18

同上

17-19

2号墳石室出土須恵器

17-19

同上

17-20

同上

18-1

2号墳石室出土須恵器

18-2

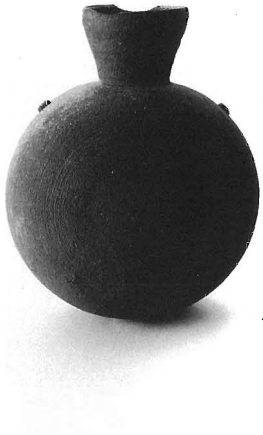
同上

18-3

同上

18-4

2号墳石室出土須恵器



18-5

同上

18-5

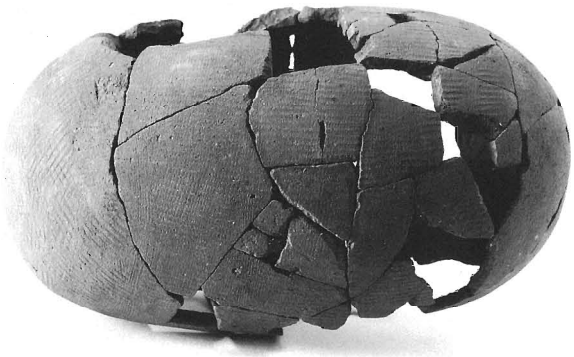
同上

18-6

2号墳石室出土須恵器

18-8

同上



同上

2号墳石室出土須恵器

18-9

同上

18-10

同上

18-11

2号墳石室出土須恵器

18-12

同上

18-14

2号墳石室出土土師器

19-1

2号墳石室出土土師器

19-1

同上

19-2

同上

19-3

2号墳石室出土土師器

19-4

同上

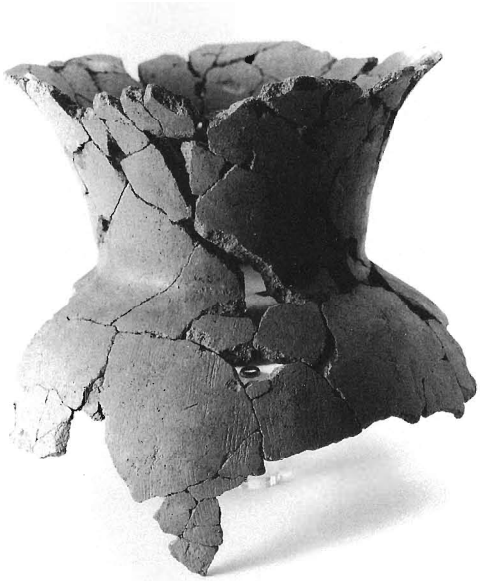
19-5

同上

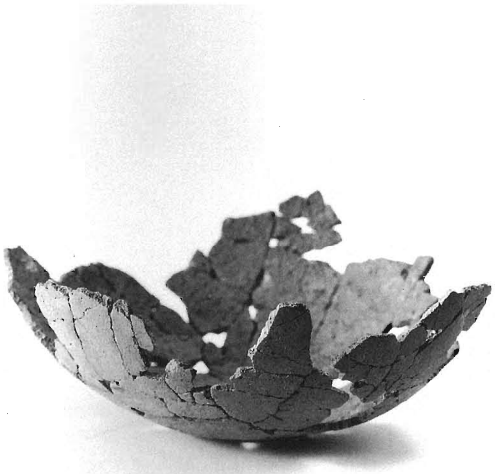
2号墳石室出土土師器

19-6

同上



同上

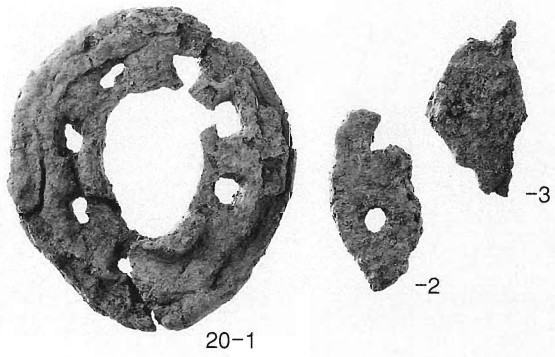


2号墳石室出土土師器

同上

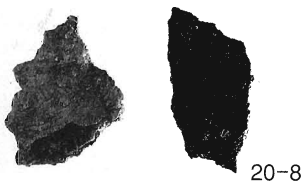
同上

2号墳石室鉄製品



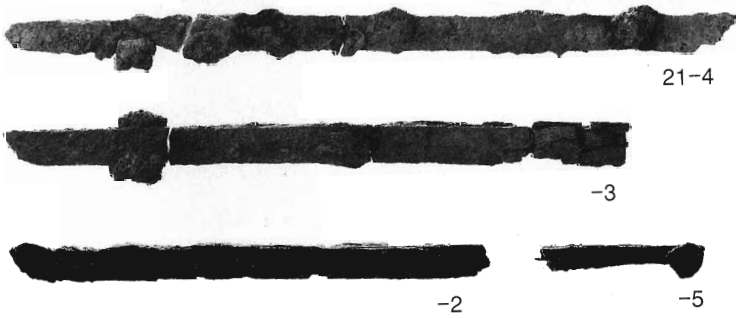
同上

同上



2号墳石室出土鉄製品

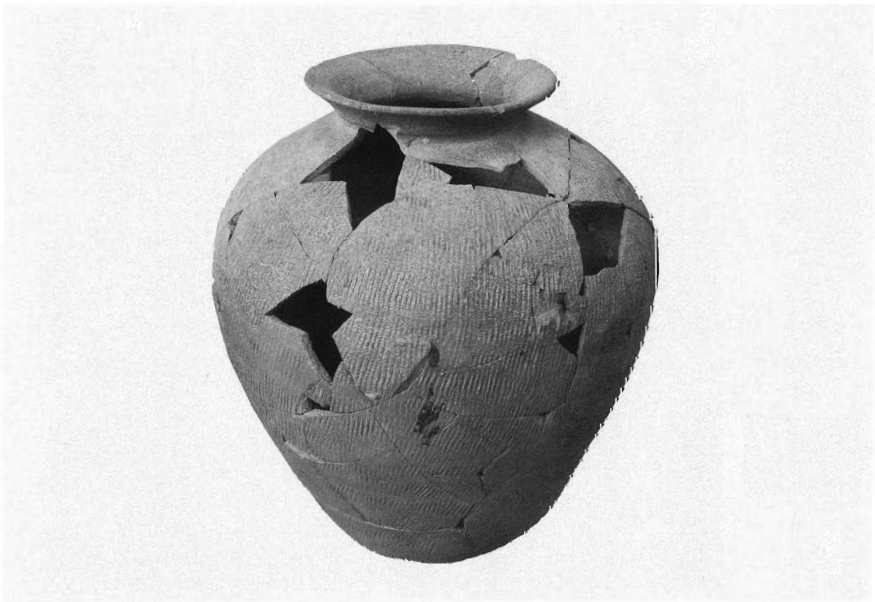
同上



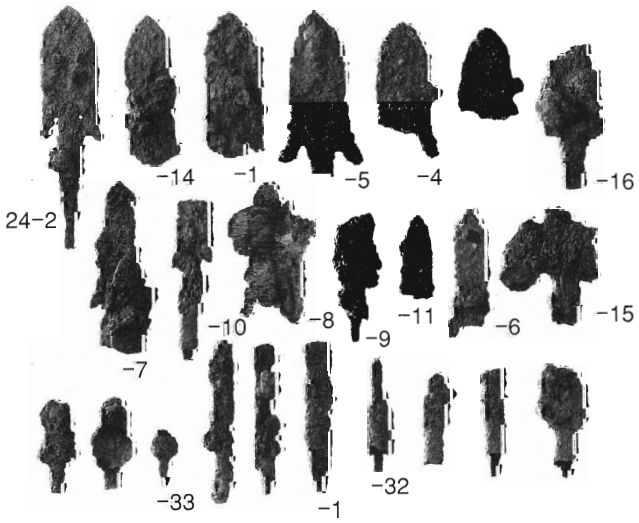
同上

2号墳石室出土鉄製品

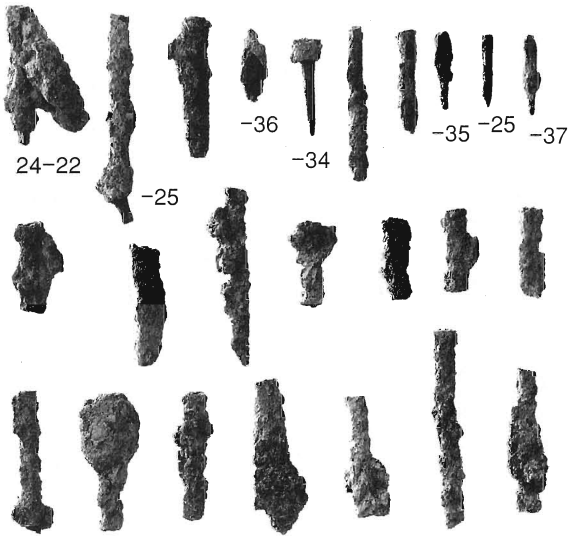
2号墳出土須恵器



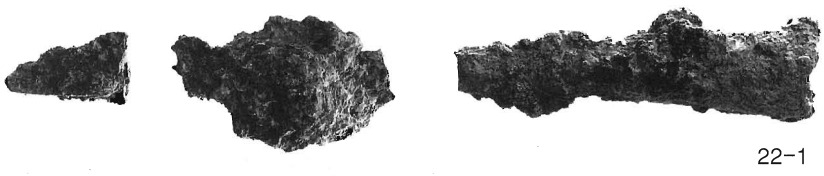
2号墳石室出土鉄製品



2号墳石室出土鉄製品

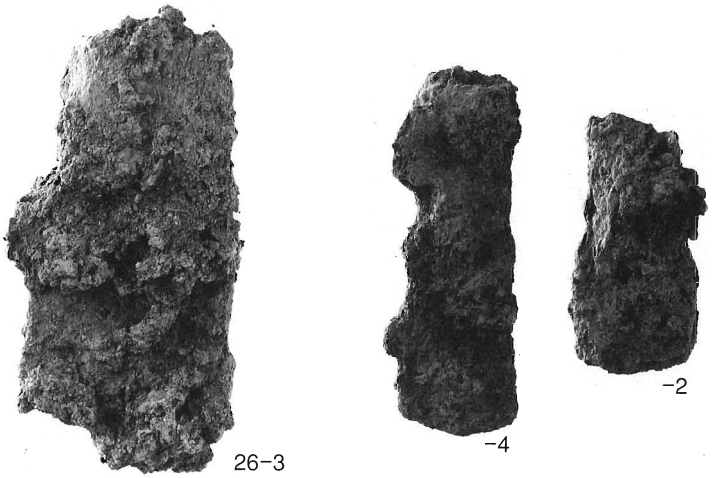


同上

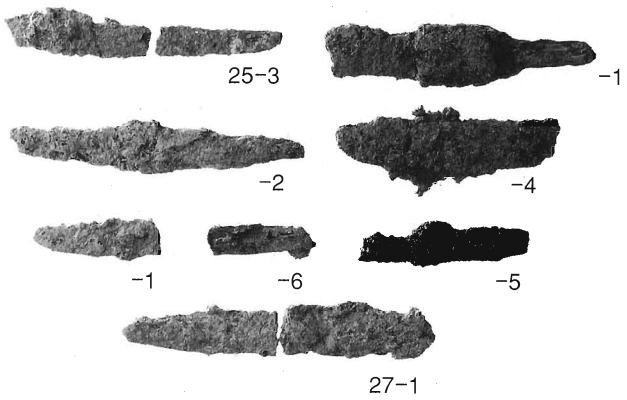


同上

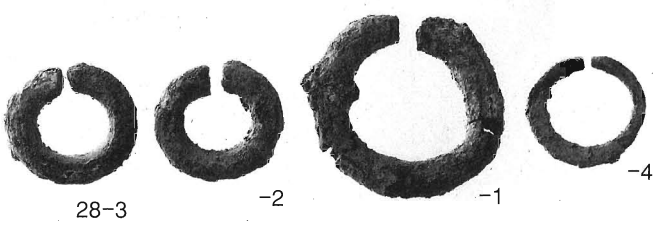
2号墳石室出土鉄製品



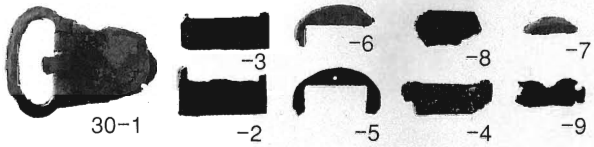
同上



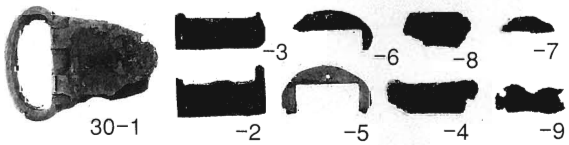
2号墳石室出土銅製品



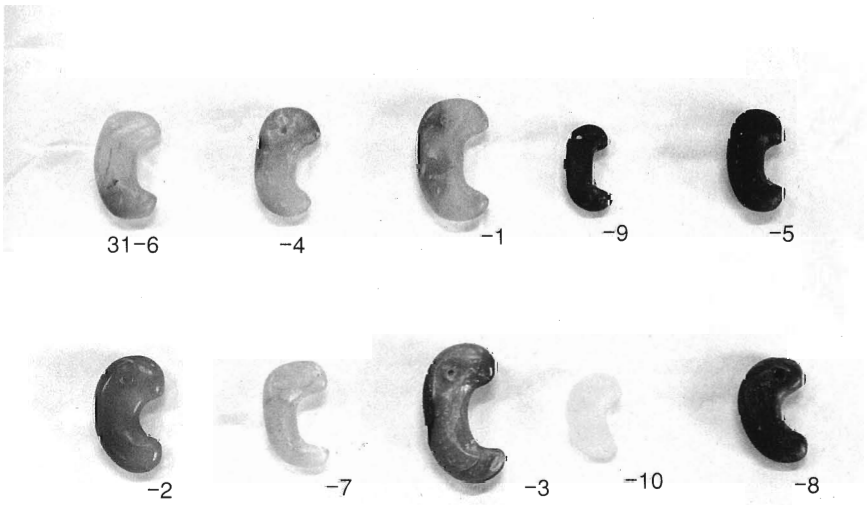
2号墳石室出土銅製品



同上



2号墳石室出土石製品



大座西遺跡発掘調査報告書

発行日　平成18(2006)年3月31日
編集・発行　隠岐の島町教育委員会
〒685-0011 島根県隠岐郡隠岐の島町栄町1437
TEL 08512-2-2126
FAX 08512-2-0619
http://www.town.okinoshima.shimane.jp
e-mail kyouiku-syougaku@town.okinoshima.shimane.jp
印　刷　渡部印刷株式会社

報告書抄録

ふりがな	おおざにしいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	大座西遺跡発掘調査報告書
副書名	磯地区統合小学校建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	横田　登、野津研吾
編集機関	隠岐の島町教育委員会
所在地	〒685-0011　島根県隠岐郡隠岐の島町栄町1437　TEL08512-2-2126
発行年月日	2006年3月

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
おおざにしいせき 大座西遺跡	しまねけん 島根県 おきぐん 隠岐郡 おき　しまちょう 隠岐の島町 しもにし 下西 おおざ 大座	325287		36° 12′ 1″	133° 18′ 27″	20020613 ～ 20020623 20020724 ～ 20020922 20040726 ～ 20040811 20040922 ～ 20050111		磯地区統合小学校建設事業に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大座西遺跡	古墳	古墳時代	横穴式石室2 周溝	土師器、須恵器、鉄製品、銅製品、石製品、ガラス製品	銅鏡、帯金具、銀象嵌入鍔